

広告内容に関するお問い合わせは、直接広告主までお願いします。



発行 九州大学財務部 住所 福岡市西区元岡744  
TEL 092-802-2335 E-mail zassomu@jimu.kyushu-u.ac.jp  
URL http://www.kyushu-u.ac.jp



# FINANCIAL REPORT 2020

財務レポート 2020



# 躍進百大

## 総長メッセージ

九州大学は、1911年の創立以来、我が国の中堅総合大学としてその長い歴史と伝統に培われた教育と研究で、優れた人材の輩出と専門性の高い研究成果を通じて、広く社会に貢献してまいりました。

大学の使命には教育、研究、社会貢献があり、最先端の研究成果や特徴ある研究成果を社会に還元することによって、社会を牽引する役割が期待されています。九州大学では伊都(総合科学の中核・実証実験拠点)、筑紫(先端科学融合拠点)、大橋(先端デザイン拠点)、病院(生命医療科学拠点)の各キャンパスが、各々の立地や形態と特徴を活かし、また実空間のみならずサイバー空間での様々なネットワークを活用・展開しながら、共同研究の拡大や実用化・事業化などの社会実装に向けた取り組みを一層進めます。

特に自治体、企業、そして地域の方々と一緒に、福岡の地に国際学術研究都市圏を形成する取組みをしっかりと推進してまいり

ます。近い将来、それぞれのキャンパス周辺地域に、研究機関、自治体や企業などの活動拠点が集まり、新たな産業創出が促進され、大学と周辺地域が活気ある街へと変わる原動力となるよう、力を尽くしたいと考えています。

この財務レポートは、「九州大学を支えていただいていたる皆様に、九州大学の活動、取組、挑戦を紹介させていただき、より身近に九州大学を感じていただきたい」という想いを込め、わかりやすくお伝えすることを心がけました。

皆様におかれましては、本学の財務状況等を知っていただき、今後益々のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年12月

第24代九州大学総長

## 石橋 達朗

## 九州大学財務レポート 2020

### 目次

総長メッセージ	01
九州大学基礎データ	03
九州大学の歴史	05

パートナーとしての九州大学	
国民のみなさまへ	07
新型コロナウイルス感染症への対応	13
学生・受験生・保護者のみなさまへ	17
病院ご利用・医療関係者のみなさまへ	21
企業・研究者のみなさまへ	25
地域のみなさまへ	28
同窓生のみなさまへ	29

九州大学の活動を支える財務状況	31
貸借対照表	33
損益計算書	34
キャッシュ・フロー計算書	35
財務構造(決算報告書)	36
財務指標	37
外部資金受入	39

九州大学基金の取組	41
キャンパス紹介	43
理事メッセージ	44



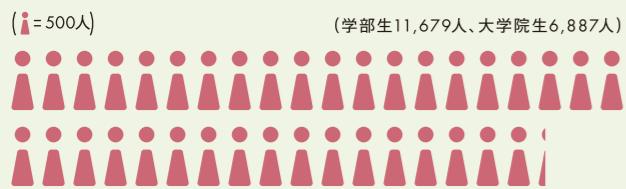
# 九州大学基礎データ

数字から見える九州大学のすがた。

創立108年

令和2年5月1日現在

**学生数**  
**18,566** 人



**土地面積合計**  
**75,772,623** m<sup>2</sup>



**教職員数**  
**7,973** 人



**教員あたり学生数**  
**9** 人の学生に**1** 人の教員

(常勤教員数2,088人で算定)



**病床数**  
**1,415** 床

(100床)



**蔵書数**  
**428** 万冊

(令和2年3月31日現在)



学部数

**12** 学部

共創学部、文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、芸術工学部、農学部

大学院(学府)数

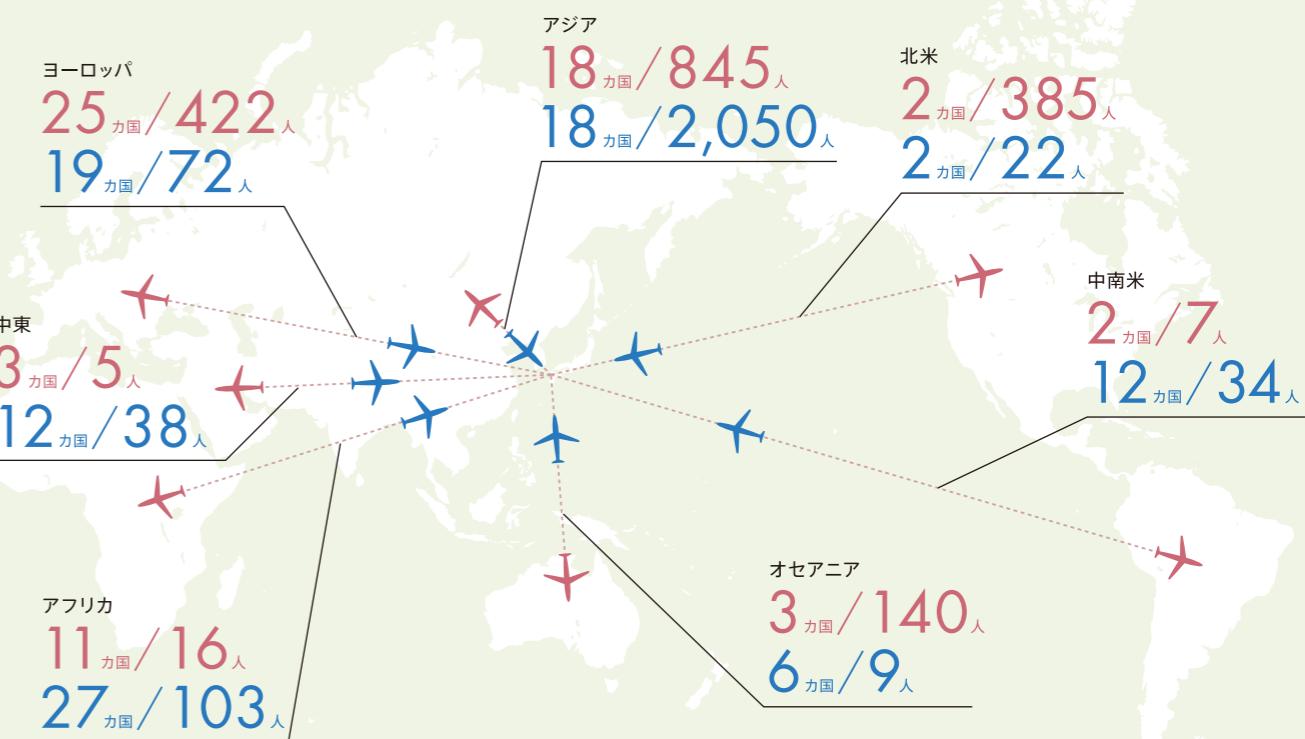
**18** 学府

人文科学府、地球社会統合科学府、人間環境学府、法学府、法務学府、経済学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、医学系学府、歯学府、薬学府、工学府、芸術工学府、システム情報科学府、総合理工学府、生物資源環境科学府、統合新領域学府

国際交流数(留学関係)

**2,328**人の留学生が**96**の国・地域から九州大学へ

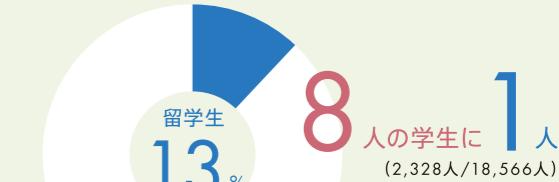
**1,820**人の九大生が**64**国・地域へ



海外オフィス・ブランチオフィス・プロジェクト拠点 **12** 力所



**留学生数**  
**2,328** 人



**国際交流協定**  
**670** 件

ケンブリッジ大学、マサチューセッツ工科大学、プリンストン大学など

# 九州大学の歴史

1879 (明治 12 年)	県立福岡医学校開設
1888 (明治 21 年)	県立福岡病院開設
1903 (明治 36 年)	京都帝国大学福岡医科大学創立
1911 (明治 44 年)	九州帝国大学創立 (工科大学・医科大学から成る)
1919 (大正 8 年)	医学部、工学部に改称 農学部設置
1924 (大正 13 年)	法文学部設置
1939 (昭和 14 年)	理学部設置
1947 (昭和 22 年)	九州大学に改称
1949 (昭和 24 年)	法学部、経済学部、文学部設置 新制九州大学となる教育学部設置
1961 (昭和 36 年)	創立五十周年
1964 (昭和 39 年)	薬学部設置
1967 (昭和 42 年)	歯学部設置
1968 (昭和 43 年)	九州芸術工科大学創立
2003 (平成 15 年)	九州芸術工科大学と統合
2004 (平成 16 年)	国立大学法人化
2005 (平成 17 年)	伊都キャンパス開校
2011 (平成 23 年)	創立百周年
2012 (平成 24 年)	創立百周年記念式典挙行
2018 (平成 30 年)	共創学部設置
2018 (平成 30 年)	伊都キャンパス完成

## 世界へ飛躍する九大新世紀

Leap into the Next



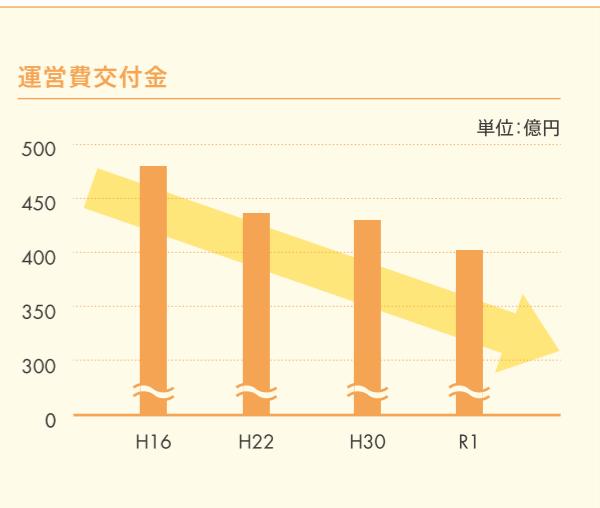
# 国民のみなさまへ

健全な運営を図りつつ、  
知の世界的拠点  
として発展し続けます。



## 運営費交付金だけに頼らない 財政基盤

運営費交付金は、大学の業務運営の基盤となる財源として、毎事業年度、国から交付されるものです。法人化初年度の平成16年度は485億円の交付を受けましたが、国の厳しい財政状況により年々減少傾向にあり、令和元年度は、406億円の交付となりました。大学が持続的に発展していくためには、運営費交付金だけに頼らない財政基盤の確立は不可欠との考えのもと、大学施設の有効活用などにより自己収入の増加を図るとともに、魅力的な研究課題を提案することで受託研究や補助金など外部資金の獲得(P39参照)に努めています。



## 第20回グリーン購入大賞で「大賞」・「環境大臣賞」を受賞 ～九州地区国立大学法人等における高圧及び低圧電力の共同調達～



平成30年より、九州大学が取りまとめ校となり、  
九州地区の国立大学法人・高等専門学校で  
**全国で初めて  
電力の共同調達を実施**

- 10大学・8高専が共同調達に参加(令和元年契約実績)
- 入札実施が困難だった多数の電力契約の入札が実施可能に

電力小売入札市場の活性化・  
グリーン契約の拡大に寄与  
経費削減・事務手続きの効率化を達成！

グリーン購入ネットワーク(GPN)が主催する「第20回グリーン購入大賞」において、九州大学の取組が評価され、「大賞」及び最上位の賞である「環境大臣賞」を受賞しました。グリーン購入大賞は、商品やサービスを環境負荷低減に努める事業者から優先的に購入する「グリーン購入」の普及・拡大に取り組む団体を表彰する制度として、平成10年に創設されました。九州大学では、平成28年4月の電力小売全面自由化を受け、平成30年から、九州

大学が取りまとめ校となり、九州地区の国立大学法人、高等専門学校で、全国で初めて「電力の共同調達」を実施しました。これにより、入札実施困難であった多数の電力契約の入札が実施可能となったため、電力小売入札市場の活性化、グリーン契約の拡大に寄与し、併せて経費削減・事務手続きの効率化を達成したことが高く評価されたものです。

## 社会との新たな連携の「力タチ」

インターネットを利用して自らの夢やアイデアを発信し、共感を得た方々から資金協力を受け、その夢やアイデアを実現する仕組みであるクラウドファンディングは、財源確保に限らず、大学の教育研究活動の広報・情報発信や国民の理解増進等の側面を担う事業であり、令和2年10月時点に12プロジェクトを実施し、約3,770万円を獲得しました。

また、契約企業のリクルート活動の促進や企業認知度の向上等を目的として本学の施設等に愛称を設定するネーミングライツでは、平成31年3月に契約したNSSOLラウンジ（日鉄ソリューションズ株式会社）に続き、令和2年10月にStudy Park（ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社）を新しく契約しました。

本学では、これらの取り組みを通じて、社会との連携を強め、より多くの方々に九大の取り組みを知っていただき、本学の応援団、ファンになっていただきたいと思っております。



◀九州大学クラウドファンディング特設サイト  
[https://readyfor.jp/lp/kyusyu\\_univ/index.html](https://readyfor.jp/lp/kyusyu_univ/index.html)



▲ネーミングライツ(NSSOLラウンジ)



▲ネーミングライツ(Study Park)

## 脱炭素社会の実現へ

### 地球温暖化防止活動 環境大臣表彰を受賞

九州大学水素エネルギー国際研究センターは、本学伊都キャンパスを「水素キャンパス」と位置づけ、未来の水素社会を具現化する取り組みとして「水素社会ショールーム」を設けてエネルギー技術を可視化し、約15年にわたり水素エネルギーの環境教育活動や啓発活動、情報発信、社会受容性の向上に努めてきました。同施設では、燃料電池自動車などを使い、一般の方や国内外の要人など、幅広い層の方々が水素社会を実体験できる場を提供しており、見学・視察者は延べ約58,000人、海外からは約4,500人に達しました。

この水素エネルギー先端研究拠点を活用した脱炭素環境教育の取組が評価され、「令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰・環境教育活動部門」を受賞しました。



▲表彰式の様子(左:八木 前環境大臣政務官 右:佐々木センター長)



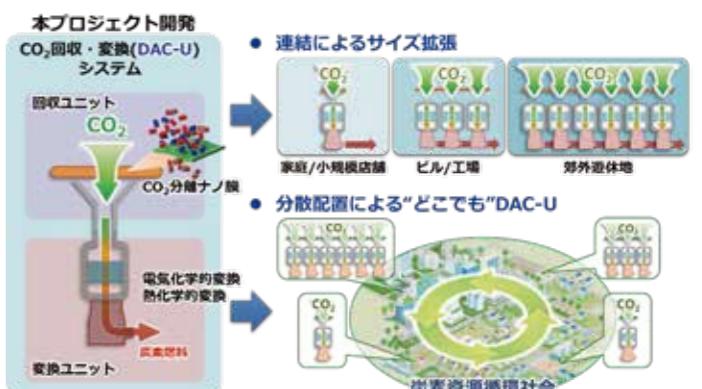
▲水素ステーションと燃料電池自動車「MIRAI」

### 地球環境問題解決を目指すムーンショット目標で 本学申請研究開発プロジェクトが採択

九州大学では、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所(I<sup>2</sup>CNER)において、CO<sub>2</sub>の排出削減とともに、非化石燃料によるエネルギーシステムを構築するための基礎科学の創出によって、環境調和型で持続可能な社会の実現を目指す研究を実施してきました。

令和2年8月、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>の回収と資源転換技術の開発を行うため、本学が代表提案機関を務める「ビヨンド・ゼロ」社会実現に向けたCO<sub>2</sub>循環システムの研究開発(I<sup>2</sup>CNER 藤川茂紀准教授)の提案研究が「ムーンショット型研究開発制度(\*)」のムーンショット目標で採択されました。

この研究プロジェクトでは、大気中に拡散しているCO<sub>2</sub>を人工的に直接回収(Direct Air Capture,DAC)し、回収したCO<sub>2</sub>を有益な資源に転換する、革新的な技術開発を行います。そして、2050年までに開発したDACとCO<sub>2</sub>転換技術の世界普及を目指し、その実用化に向けてさまざまな技術の開発も行います。



\*日本発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長ない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発(ムーンショット)を推進するものとして、総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)において創設された制度。詳細は以下を参照。  
<https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/index.html>

## シェア型電動キックボードの実証実験を実施

株式会社mobby rideは、公道に近い交通環境の九州大学伊都キャンパスの特性を活かし、令和元年度よりシェア型電動キックボードの安全性、およびニーズの検証、走行に関する各種データを取得し、電動キックボードに関連する規制緩和交渉の材料取得を目的にキャンパス内で実証実験を実施しており、令和2年度は、今後の公道での実証も見据え、より最適な利用ルールや運用方法、サービス設計などを目的として実証実験を実施しました。

次のステップとして、これまでのキャンパス内の実験結果を踏まえ、公道での実証実験を開始するなど、電動キックボードの公道走行実現を目指しています。

九州大学は、様々な課題解決の一助となるよう、今後も実証実験キャンパスとしての役割を果たしていきます。



▲シェア型電動キックボード

## NTTドコモ・九州大学による伊都キャンパスの5Gエリア化を実施

株式会社NTTドコモ九州支社（以下、ドコモ）と、九州大学は、令和元年12月に九州大学伊都キャンパスの5Gエリア化に向けた覚書を締結し、令和2年9月より一部エリアでサービスを開始しております。伊都キャンパスでは、「世界最高水準の研究・教育拠点の創造」と「時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」を基本的な考え方としています。今回の5Gエリア化は、5Gの特徴である「高速・大容量」「低遅延」「多数接続」を活かした教育・研究インフラの整備・改善だけでなく、キャンパス内の5Gエリアを一般企

業などに広く開放し、地域社会に開かれた実証実験キャンパスの充実をめざす九州大学の新しい取組です。ドコモと九州大学は、過去にも共同してオンデマンドバスの実証実験などを実施しており、その一部について、学内のオンデマンドバス「aimo」として、商用化を実現しています。ドコモと九州大学は、これまでのパートナーシップを活かし、5Gの早期社会実装による社会課題解決への貢献に向けて取り組んでまいります。

## 箱崎キャンパス跡地について

本学は、箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を推進するため、平成25年7月に福岡市とともに、学識経験者、地域住民代表、経済界等で構成される「箱崎キャンパス跡地利用協議会」を発足しました。平成30年7月に、まちづくりの指針となる「箱崎キャンパス跡地グランドデザイン」を策定するとともに、福岡市が先進的まちづくりとして推進する「FUKUOKA Smart EAST」構想の箱崎への導入実現に向けて、福岡市をはじめとした関係機関と連携して、先進技術の実証実験等を行ってまいりました。

これらの取組を踏まえた魅力あるまちづくりを目指し、令和2年度中に、土地利用事業者の公募を開始します。

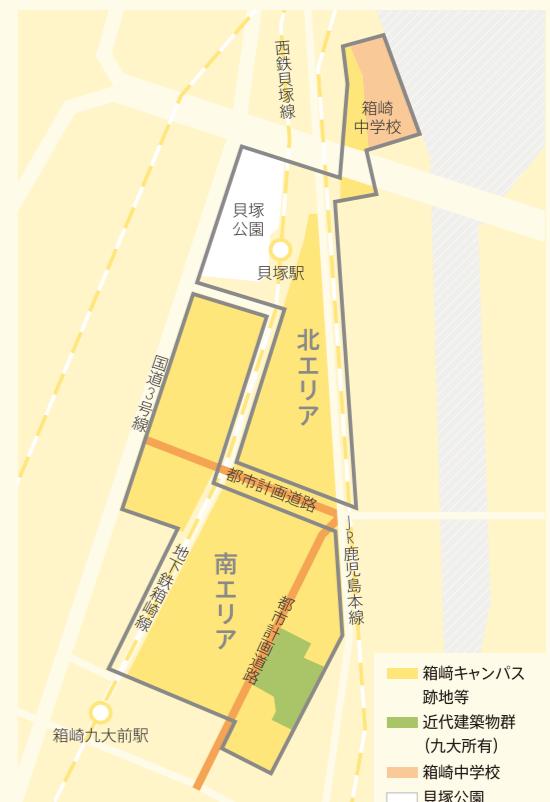
また、工学部本館や本部第一庁舎などの近代建築物群は本学が所有し今後も活用していきます。



▲工学部本館

### 事業スキーム

#### 都市基盤の整備範囲(案)



### 九州大学が関係機関と連携して取り組むまちづくり事業

#### 北エリア(約20ha)

##### 『福岡市』による『土地区画整理事業』

- 貝塚駅周辺を含む脆弱な都市基盤の解消および総合的な交通結節機能の強化(駅前広場整備、東西方向の連絡性向上など)
- 貝塚公園や箱崎中学校などの公共施設の再配置と移転跡地の活用
- 市有地や公共施設が多い中の市の主体的な関与

#### 南エリア(約30ha)

##### 『UR都市機構』による『開発行為』

- 九州大学は、早期の資金確保と適切な土地処分のため、迅速な都市基盤整備が可能な事業者として、UR都市機構を選定
- 福岡市は、UR都市機構による都市計画道路等の「直接施行制度」を活用



▲5Gエリア化予定場所

# 新型コロナウイルス感染症への対応

## 九州大学病院の新型コロナウイルス感染症への取り組み

- 福岡地域の新型コロナウイルス感染症診療に関わり、その感染制御に直接貢献すること。
- 九州大学病院に求められている様々な難病に対する先進医療や高度医療を行うための機能を維持し、通常医療の「最後の砦」としての役割を確実に果たすこと。

これらを重要な使命と認識し、病院職員が一丸となり、新型コロナウイルス感染症への様々な対応を行ってきました。そして、これまでに重症患者を含む多くの患者を受け入れ、福岡県における新型コロナウイルス感染症の診療体制堅持等に大きな貢献を果たしております。

### 主な取り組み

#### 新型コロナウイルス専用病床の確保

通常の診療棟から離れた建物内に、適切なゾーニングのもと、新型コロナウイルス感染症患者専用の病床を数十床単位で確保いたしました。これとともに救命救急センターを中心とした医療チームを配置し、各患者さんの症状に応じた適切な治療を行っております。

#### 院内感染防止対策

- PCR検査機器の増設等検査体制の強化を行い、術前PCR検査、抗原検査を実施しております。
- 発熱スクリーニング外来を設置し、発熱者を診療する場所の集約化を行っております。
- 外来棟玄関等において、サーモグラフィーによる来院者の体温チェックを実施しております。

#### 体外式膜型人工肺(ECMO)の増設・人材育成

ECMOは重症患者に対する集中的治療に一定の効果のある治療手段です。重症患者の受け入れ体制を整備するため、ECMOを増設いたしました。しかしながら、ECMO治療は専門性が非常に高く、人材育成が喫緊の課題となっております。本院では、ECMO関連学会への積極的参加、院内スタッフ向け講習会の開催等による人材育成も同時に進めております。

#### 地域医療機関・地方自治体等への人材派遣

- 感染症指定医療機関へ医師を派遣し、地域医療に貢献しております。
- 看護師(感染管理認定看護師)を軽症者等の県内宿泊療養施設へ派遣し、JMAT(日本医師会災害医療チーム)職員等に対し、防護服の着脱指導、感染防御に関する指導を実施いたしました。
- 福岡県における必要な医療体制を維持するための調整本部へ本院感染症医療専門医や救命救急専門医が参加しています。

#### 福岡市立の学校における新型コロナウイルス感染症対策をサポート

市立の学校における新型コロナウイルス感染症対策は、国が示すガイドライン等に基づいて対策が行われており、新型コロナウイルスは未知の部分が多い中、児童生徒の安全対策にはスピード感が求められておりました。本院グローバル感染症センターは、令和2年7月1日より、市立の学校における新型コロナ

ウイルス感染症対策について、学校現場からの相談に対し、医学・疫学に関する専門的見地から、学校において必要な日常の感染予防対策や学校で感染者が発生した場合の休校、学校再開に向けた感染症予防対策について助言等を行い、迅速に学校現場をサポートしております。

病院ご利用のみなさまの、外来診療の受付延期や入院患者さんとの面会制限等の感染対策へのご理解ご協力により、特定機能病院としての医療体制を維持することができ、心より感謝を申し上げます。引き続き、最先端医療を提供できる「地域医療の要」として、みなさまが安心して暮らせる地域づくりに貢献できるよう尽力してまいります。

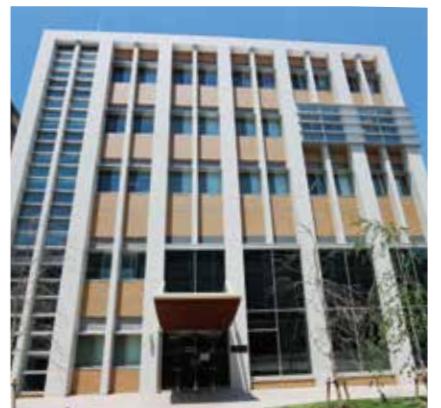
新型コロナウイルス感染症患者受入れの様子▶



## 新型コロナウイルスのワクチンや治療薬研究で2つの大きな成果



▲九大発ベンチャー「KAICO株式会社」(福岡市西区九大新町)



▲グリーンファルマ研究所(病院キャンパス)

九州大学カイコ研究チームは「KAICO株式会社」と共同でワクチン候補タンパク質開発に成功しました。また、九州大学グリーンファルマ研究所は、既承認薬からの治療薬探索で1種までの絞り込みに成功し、早期実用を目指しています。

### 九大カイコ研究チーム ワクチンの候補タンパク質開発に成功

九州大学農学研究院は、100年以上カイコの飼育研究を続ける世界最先端のカイコ研究拠点です。日下部宜宏教授は、九大で飼育している約450種のカイコの中に、体内でワクチンの原料となるタンパク質を大量につくってくれる種があることを発見しました。平成30年には福岡市にカイコを利用した組換えタンパク質発現の技術等、本学の技術をもとに九大発ベンチャーとして「KAICO株式会社」が創業され、現在は同社と共同でパンデミック時に役立つワクチンを研究開発しています。そんな中、新型コロナ問題が起り、このほど、ワクチン候補となるタンパク質の開発に成功しました。新型コロナウ

ルスの表面にはスパイクのような形をしたタンパク質があり、これがヒトの細胞の表面にあるタンパク質と結合して感染すると考えられていますが、このスパイク形タンパク質と同じ構造のタンパク質を人工的につくることに成功したものです。今後、開発中のワクチンの基本性能を薬学研究院(植田教授、西田教授)との共同研究により評価し、高性能ワクチンを作る研究を加速すると共に、製薬企業などと提携しての臨床試験を目指していきます。カイコによるワクチン開発は、より安価に大量生産できる可能性が高く、途上国への貢献も期待されます。

※令和2年6月時点での記事です

### グリーンファルマ研究所 既承認薬からの治療薬探索で1種まで絞り込み

また、本学薬学研究院附属グリーンファルマ研究所の西田基宏教授のチームは、新型コロナ治療薬を既承認薬から探索する研究を進めていますが、1種までの絞り込みに成功、早期の実用を目指しています。グリーンファルマ研究所は、平成27年に

“患者さんと地球環境に優しい創薬”をめざしてスタートした研究所で、薬のない病気で苦しむ患者さんに、既に承認されている他の病気の薬から探索して早く届ける“エコファーマ”をひとつの理念としています。

## With&Beyondコロナ時代における学生のための安心・安全プラン

本学では、学生の皆さんが安心して大学で過ごせるよう「With & Beyondコロナ時代における学生のための安心・安全プラン」を策定しました。

学修機会の確保と感染対策を両立するための工夫を行うとともに、コロナウイルス感染拡大防止の観点から来学出来ない学生にも配慮した上で、遠隔授業と対面授業を併用し、質の高い教育を提供していきます。



▲オンライン授業の様子

### 感染防止対策

- ソーシャルディスタンスの徹底 ..... 通学バスの混雑回避のための「バス停混雑度可視化システム」の充実 等
- 除菌・消毒、ウイルス対策 ..... 講義室空調設備へのウイルス対策フィルターおよび換気のためのサーキュレーターの設置 等
- サーモグラフィー等の設置 ..... 学生が集まる図書館・学生寮へのサーモグラフィーの設置 等

### 教育環境の充実

- ICTを活用した学習支援 ..... 本学独自開発のM2B(みつば)学習支援システムを利用したオンラインでの授業を実施し、そこで蓄積した教育ビッグデータを活用した学習支援を推進 等
- 国内での異文化学習 ..... 立命館アジア太平洋大学との連携による、海外経験を補うための国内で異文化学習が可能となる教育モデルの開発

### 学生支援の充実

- 学生窓口AIシステムの導入 ..... 学生の利便性向上のため、キャンパス外から24時間オンラインでの問い合わせを可能とするAIシステムの構築
- 英語能力試験奨励制度 ..... 意欲ある学生の語学力向上や留学に向けた取組を支援 (IELTS、TOEFL iBTの受験料負担)
- 学生キャリア・就職支援 ..... オンラインまたは対面による柔軟なキャリア・就職相談 等
- 学生の心のケア ..... WEBによる新規相談受付 等
- 留学生への経済支援 ..... 令和2年度入学者を対象に私費留学生への渡日直後のホテル滞在費の一部負担

## 九州大学緊急学生支援プラン

新型コロナウイルス感染症による影響を受け、保護者等の経済状況の深刻化や、アルバイトの休止等による収入減少など、生活に大きな影響が生じている学生に対して緊急に支援を進めるための取り組みを総合的に実施しています。

### 緊急授業料免除

新型コロナウイルス感染症の影響による家計維持者の収入減少に伴い、本学の授業料免除基準に該当することとなる学生であって、文部科学省・日本学生支援機構の「修学支援新制度」の支援対象とならない者について緊急に授業料免除を行いました。(留学生を含む学部生、大学院生が対象)

### 緊急学生支援金

保護者等の経済状況の深刻化や、アルバイトの休止等による収入減少など、生活に大きな影響が生じている学生が安心して学業に励むことができるよう、現在の状況において経済的支援を必要とする者に対して、学生からの申請に基づき一人3万円を給付しました。(留学生を含む学部生、大学院生が対象) 支援金の給付に際しては『新型コロナウイルス対策学生支援基金』及び『新型コロナウイルス対策留学生支援基金』を設立し、学内教職員や同窓生、また、日頃より九州大学とご縁をいただいている皆様に広くご支援をいただいております。

上記の大学独自支援の他、政府が実施する学生支援緊急給付事業(「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』)や、日本学生支援機構が実施する経済支援(奨学金等)などの事業についても、大学が窓口となり、きめ細かな学生支援を実施しています。

## 九州大学の学生と留学生のための支援基金の取組み



### Leap into the Next

「新型コロナウイルス対策学生支援基金  
同 留学生支援基金  
へのご支援のお願い」

学生が経済的な理由で学業を断念することがないよう、九州大学基金内に新たに設けた基金へのご支援のお願いです。  
寄附の方法、問い合わせ先等掲載しております。

### 新型コロナウイルス対策 学生支援基金

九州大学『新型コロナウイルス対策学生支援基金』へのご支援のお願い▶



### 新型コロナウイルス対策 留学生支援基金

九州大学『新型コロナウイルス対策留学生支援基金』へのご支援のお願い▶



# 学生・受験生・保護者のみなさまへ

実り多き学生時代のために、  
ひとりひとりサポートします。

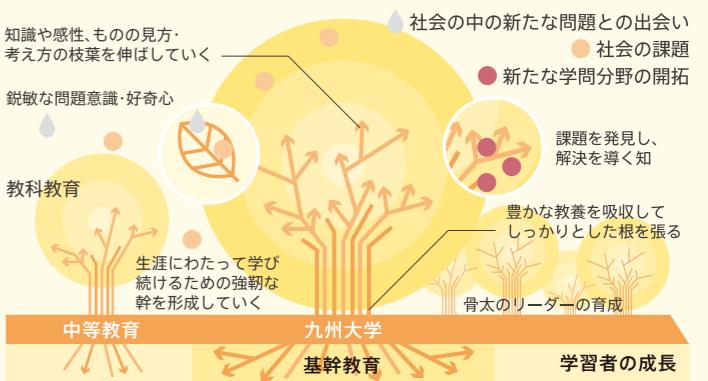


17 令和2年9月に開催された新入生歓迎式典の様子

## 自立的な学ぶ力の涵養

生涯にわたり自立的に学び続けるアクティブラーナーを育成する「基幹教育」を開始しています。具体的には『基幹教育セミナー』、『課題協学』に代表される文理融合クラスでの教育です。授業では、ものの見方・考え方・価値観の異なる人と多様な知を交流し活動する能力、差異を認め合う共感性、そして問題解決へと導くコミュニケーション能力が磨かれています。さらに、異なる学部の仲間との自己省察を通じて主体的な学び方を身につけ、それぞれに生涯にわたって学び続ける強靭な幹が育まれています。

## 基幹教育による成長モデル



## 安心して学ぶための経済支援

経済的理由により授業料等の納付が困難で、学業優秀と認められる学生を対象に入学料や授業料を免除する制度があります。加えて、本学独自の経済的支援として、優れた志を持ち学業成績が優秀な学部学生を対象とした「山川賞」や「学生交流協定に基づく交換留学生の授業料不徴収」など、学生に対する経済的支援を積極的に導入しています。また、新たに中本博雄様(福岡市)のご寄附により「中本博雄賞」を創設し、①海外渡航支援、②学生の海外派遣支援、③修学支援を行い、20年間にわたり、年間約65名の学生が、学業に専念し、また、海外留学等の貴重な機会を得ることが可能になります。本学では、引き続き、学生に対する積極的な経済支援に取り組みます。(関連情報P42)

### 主な本学独自の経済的支援

- 授業料、入学料の免除
- 大学院生の教育補助業務に対する手当
- 山川賞、中本博雄賞
- 学生交流協定に基づく交換留学生の授業料不徴収
- 博士課程学生の研究補助事業に対する手当
- 学士課程(国際コース)の成績優秀者に対する奨学金

## 実り多き学生生活のための支援

本学では、学生の学びの環境を支えるべく、修学支援、キャリア支援、生活支援、正課外活動支援といった様々な支援に取り組んでいます。新入生へのガイダンス、履修相談、進路・就職相談、OB・OG訪問支援、学費免除、奨学金など幅広い支援を行っています。また、キャンパスライフ・健康支援センターでは、医師、保健師、看護師、カウンセラー、コーディネーター等が、専門的な見地から、心身の健康、人間関係、生活習慣の改善や禁煙指導等、身体的なものから心理的なものまで様々なご相談に対応しています。なお、このセンターでは、保護者のみなさまからのご相談もお受けしております。学生が実り多き学生生活を送れるよう、引き続き、一人ひとりに寄り添う支援を行っていきます。



▲キャンパスライフ・健康支援センター

## 異文化交流を育む学生寮・英語学習サポート

伊都キャンパスをはじめ、大橋キャンパス等に学生寮を整備し、1,300人以上の学生が生活しています。とりわけ、伊都キャンパスの学生寮は、多国籍の学生が混住する国際寮で、個人の生活を尊重しつつ人間関係を構築し、多様な学生と交流できるよう配慮しています。また、正課の授業外での自主的な英語学習をサポートするために「SALC(Self-Access Learning Center)」を設置して、英会話、TOEFLやIELTSなどの試験対策などのサポートを提供したり、学内外の各種留学・研修プログラムに関する情報を常時提供したり、留学相談に応じています。スタッフ、学習センター(留学生の大学院生)はみなフレンドリーで、利用者の中にはここで英語の力をつけて留学の夢をかなえた人たちもあり、自分の興味に応じた英語学習を楽しんでいます。



▲SALCの様子  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため閉室中(令和2年10月現在)

## インクルージョン支援の推進

障害のある学生及び教職員が個性と能力を発揮できるよう、その不利益となる社会的障壁を除去するためさまざまな支援(合理的配慮)を行っています。具体的には、修学・就労等における情報保障やコミュニケーション上の配慮、授業教室での優先席の確保等の合理的配慮を進めるための授業担当教員への配慮依頼、教材・支援機器の情報提供等の取り組みを行っています。また、大学では、グローバル共生社会での人材育成として、障害者支援を担うピア・サポーター学生の育成にも取り組んでいます。



本学ホームページに掲載しているバリアフリーマップ▶

## THE 世界大学ランキング国内5位

ベネッセグループと英国の教育専門誌のタイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)は令和2年3月24日、日本版の大学ランキングを発表しました。今回で4回目となる発表で本学は国内5位でした。日本版ランキングの指標は、教育リソース、教育充実度、教育成果および国際性の4分野13項目で構成されています。

本学が最もランクが高かった分野は昨年に続き「教育成果」(国内3位)で、企業人事および研究者の評判が高かったことを示しています。また、本学学生および高校教員の評判を示す「教育充実度」の順位も11ランク上昇し12位となりました。



## 学びを生み出す中央図書館

平成30年10月にグランドオープンした中央図書館は、2万m<sup>2</sup>の面積、約1,400席の座席数、150万冊の自動書庫を含む350万冊の収蔵能力を持つ、全国でも有数規模の大学図書館です。中央図書館では、圧倒的な蔵書により学生の学びと知識の深化を強力に支援します。また、学生の学習形態にあわせて、多彩な利用エリアを準備しています。中でも、活発に議論しながら学習できるアクティブ・ラーニング・スペース「きゅうとコモンズ」には、可動式のイスやホワイトボードなど学習活動を支えるアイテムを設置し、学生の主体的な学びを創出しています。

その他、図書館では、単に学習の場を提供するにとどまらず、レポートの書き方講座をはじめとした各種講習会の開催や、図書館TA(Cuter)という名のティーチングアシスタントが学習に関する疑問や相談を受ける学習相談デスクを設置するなど、学生の学びを積極的にバックアップしています。



▲4階にわたる吹抜けの大空間



▲きゅうとコモンズの1,000m<sup>2</sup>におよぶ広いスペースには、講習会スペース、グループ学習室、その他さまざまなエリアがあります。



▲学習相談デスクで気軽に学習に関する疑問や相談ができます。※新型コロナウイルス感染症感染防止のため、オンラインで実施(令和2年10月現在)

# 病院ご利用・医療関係者のみなさまへ

患者さんに満足され、  
医療人も満足する医療の  
実現を目指します。



九州大学病院は、110年余りの歴史を持ち、国立大学病院では最大規模の1,400床を超える病床を有し、入院・外来患者数及び高難度手術や臓器移植を含む手術件数などの診療面、臨床研究並びに国際化の取組など、国内屈指の実績を有する大学病院です。

近年では「臨床研究中核病院」として国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う病院としての活動を推進しているほか、「がんゲノム医療中核拠点病院」として、がんゲノム医療を推進するとともに、広域医療圏拠点としての連携体制構築に向けて事業を展開しております。また、本院と地域医療機関との連携の実績を地域の皆様にお示しし、安心して切れ目のない医療

を受けていただくために「九州大学病院連携医療機関登録制度」を充実させるなど、地域医療との連携にも力を入れています。さらに、急速に進む国際化への対応として、「国際医療部」の設置や「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」の認証取得を行うなど、アジアに近い立地を活かした医療の国際化を推進しています。

今後も、志の高い優れた医療人の育成に努め、先端医療の創出と質の高い診療の提供に尽力し、みなさまの期待と信頼に応える最善の医療を追及してまいります。

## 理念と方針

患者さんに満足され、医療人も満足する  
医療の実現を目指します。

1. 広域医療圏拠点としての連携体制の構築
2. 高度先進医療を支える医学研究の推進
3. 全人的医療を実践する医療人の養成
4. 小児から高齢者まで包括する移行期医療の充実
5. 国際化の推進

## 小児心臓移植施設に認定

令和2年5月26日付で九州大学病院は全国6番目大阪以西では唯一の小児心臓移植施設に認定されました。

心臓の移植手術は重症心不全に大きな効果が期待できる治療法ですが、手術・周術期管理に高度な技術と知識が要求されますので、認定を受けた施設においてのみ移植手術を施行することが許されています。これまで大阪以西には、小児のための心臓移植認定施設がなく、心臓移植を希望する11歳未満の大阪以西の患者さんは、住んでいる街や付き添い以外の家族とも離れ、大阪や東京など遠方の認定医療機関まで出向き手術を受けなければならず、経済的にも精神的にも大変な負担がかかっていました。今回の施設認定により、九州のみならず、中国・四国・沖縄地方など周辺地域の患者さんの小児心臓移植に取り組むことができるようになり、重症心不全の子どもの治療を一貫して本院で受けられるようになります。

今後さらに県内県外の小児の心臓病患者さんを治療する多くの医療機関と連携し、少しでも自宅近くで治療を完結できる環境を整えることを目指します。



▲小児心臓移植実施施設認定証  
指定期間: 令和2年5月26日～令和7年5月25日

臓器移植施設の承認状況	小腸移植	平成11年12月24日
	腎臓移植	平成7年6月3日
	脾臓移植	平成11年2月15日
	肝臓移植	平成12年5月22日
	心臓移植	平成15年6月2日

## がんゲノム医療の推進

平成30年2月16日付で、「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定され、がんゲノム医療を推進しています。令和元年6月1日には、2つのパネル検査「FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル」「OncoGuide NCC オンコパネルシステム」が保険収載され、本院では令和元年8月より、保険診療でのパネル検査を開始し、開始から令和2年3月31日までの期間で、全国的に見ても多い154件の検査を実施いたしました。また、連携病院症例の検討については、100例の検討を行い、中核拠点病院としての責務を果たしております。さらに、国立がん研究センターが行っている臨床研究（遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養）の分担施設として参画し、令和2年4月16日付で厚生労働大臣より、実施医療機関として認められました。

この臨床研究は、がん遺伝子パネル検査後に患者申出療養制度に基づき、適応外薬を使用し、その治療効果を検討するものです。がん遺伝子パネル検査の結果、治療候補となり得る遺伝子異常が見つかったものの既承認薬による治療や未承認薬による治験等を受けられない患者さんでも、自らの申出により、治療を実施できるようになり、治療への選択肢が広がりました。今後も、連携するがんゲノム医療拠点病院（5施設）、がんゲノム医療連携病院（13施設）、との協力のもと、がんゲノム医療を推進いたします。



## 丸紅株式会社との包括的戦略提携に関する覚書締結

九州大学病院は令和元年9月に丸紅株式会社と医療・ヘルスケア分野における海外事業展開において、包括的戦略提携の覚書を締結しました。

東南アジアでは、人口増加・所得向上に伴い医療需要が急速に拡大している一方、医療サービスが国際水準に達している病院数が不足しています。また、ロシアおよび中国では、先進国に比べ平均寿命は依然として低く、予防医療を含めた医療サービス向上が社会的課題となっています。本提携により丸紅の持つ海外医療機関のネットワークを活用し、現地医療従事者に対する遠隔医療教育システムを用いた医療技術指導等の教育支援、医療スタッフ招聘による臨床研修、また現地市民等を対象としたセミナー企画・講師派遣を実施してまいります。日本の予防医療と先進医療に関する普及活動等を行い、これらの地域における人々の生活の質の向上に貢献いたします。



損益計算書(病院セグメント) (単位:百万円、単位未満切捨)

事項	平成30事業年度	令和元事業年度	増減	
<b>■経常費用</b>				
業務費	54,856	56,469	1,612	
教育経費	20	12	▲7	
研究経費	1,000	997	▲2	
診療経費	32,695	34,357	1,661	
受託研究費等	1,084	913	▲171	
受託事業費	199	224	24	
人件費	19,856	19,964	108	
一般管理費	337	314	▲23	
その他	298	200	▲97	
<b>■経常収益</b>				
運営費交付金収益	5,078	4,196	▲882	
附属病院収益	48,359	50,250	1,891	
受託研究収益等	1,368	1,253	▲115	
受託事業等収益	203	228	25	
寄附金収益	336	336	0	
補助金等収益	636	574	▲62	
施設費収益	12	24	12	
資産見返負債戻入	409	274	▲135	
その他	500	360	▲139	
(経常損益)	1,412	514	▲898	
<b>■臨時損失</b>				
78	427	349		
<b>■臨時収益</b>				
0	200	199		
(臨時損益)	▲78	▲227	▲149	
<b>■当期純利益</b>				
1,334	286	▲1,047		
<b>■目的積立金取崩額</b>				
0	0	0		
<b>■当期総利益</b>				
1,334	286	▲1,047		

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

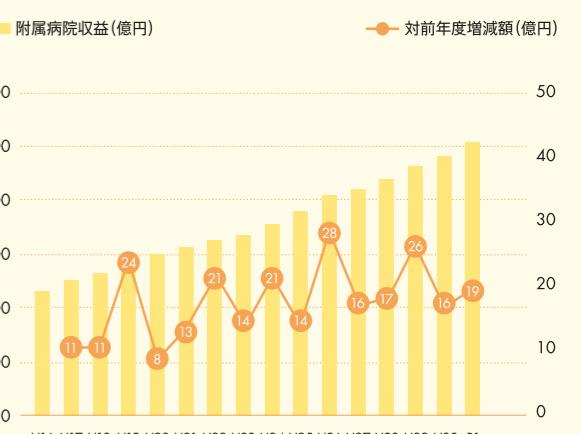
### 【令和元年度の概要】

「運営費交付金収益」が減少する等厳しい経営環境の中、国立大学病院に課せられた使命を果たしていくため、「附属病院収益」の増加等の経営努力を行い、「当期純利益」2.9億円を確保いたしました。

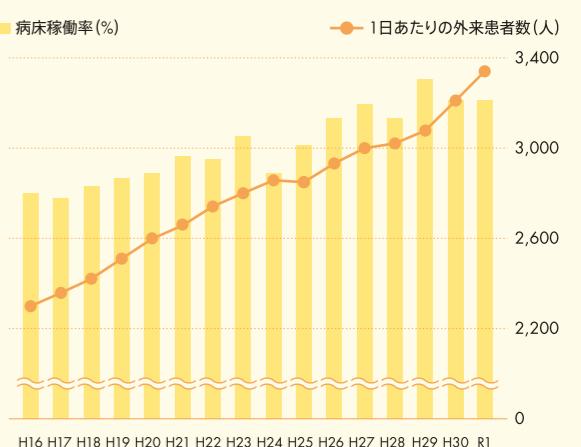
※附属病院収益増加の主な要因

- ・手術件数の増加
- ・入退院時の支援業務の充実等による入院患者数の増加
- ・化学療法等の増加に伴う外来診療単価の増加
- ・地域医療機関との連携強化等に伴う外来患者数の増加

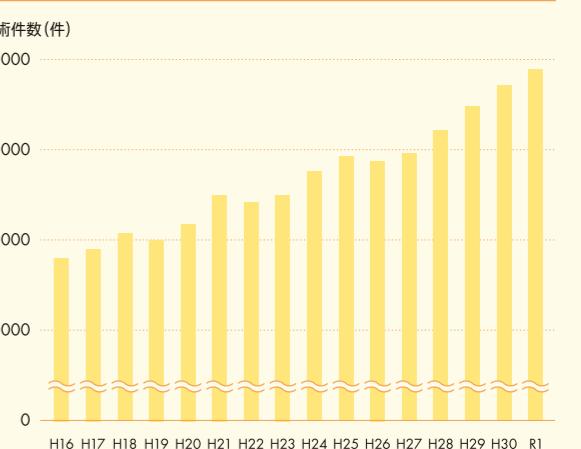
附属病院収益



病床稼働率及び1日あたりの外来患者数



手術件数



# 企業・研究者のみなさまへ



社会の豊かな発展のために、  
本学の研究シーズを  
ご提供します。

大学院農学研究院 石野 良純 教授  
(CRISPRの発見者)のラボの様子

※2020年のノーベル化学賞の受賞者に、ゲノム編集技術の「CRISPR/Cas9」(クリスパー・キャスナイン)を開発した2人の研究者が選ばされました。

受賞の対象となったゲノム編集の手法は、約30年前に大腸菌のDNA解析により、規則的な同じ配列が繰り返されることを発見し、1987年に論文を発表したことが原点にあります。その原点となった遺伝子の基礎配列「CRISPR」(クリスパー)を発見したのが、大学院農学研究院の石野良純教授です。

## 企業等のイノベーション創出を応援します

学術研究・産学官連携本部では、企業等外部機関からの技術的な課題にお答えするための相談窓口を常時開設しており、令和元年度は、92件のご相談を頂きました。お申し込みいただければ、専門スタッフが詳しい内容をお聞きし、課題解決のために最適な研究者の紹介及び最適対応(技術相談、技術指導、受託研究・共同研究、他機関の紹介等)をご提案します。また、昨今の産業界からの多様な要請に応えるため、従来の技術指導制度の内容を拡充し、新たに「研究開発コンサルティング制度」として見直しを図りました。この制度では、これまで実施してきた技術評価・知見の提供等や研究上の助言や指導に加え、先端技術調査や共同研究のプレ検討、産学でのコンセプト共創(企業に対し新事業の企画や実現に向けた計画立案を支援)などの要請も受け入れることができますので、お気軽にご相談ください。

- 企業等から申込書の送付  
申込書はホームページから取得できます。
- コーディネーターによるプレヒアリング  
コーディネーターが詳しいお話をお聞きします。
- 対応方法等の決定(毎週部内で検討会)  
課題解決のための最適な対応方法等を検討します。  
内容によっては対応できることもあります。
- マッチング教員選定・三者面談実施  
日程調整はコーディネーターがサポートします。
- 技術相談/研究開発コンサルティング制度/  
受託研究・共同研究

## 大学発ベンチャーを支援します

### 九大発ベンチャー株式会社メグウェルが誕生

株式会社メグウェルは、リハビリテーションを主体としたロボット技術の医療応用に関する社会実装を目指して設立された企業です。現在は日本医療研究開発機構(AMED)からの支援を受け、製薬企業、メーカーと共に数年後の市場参入を目的に研究開発を行っています。社名は、「恵みを得る」に由来しています。工学研究院の荒田純平教授は、第III期九大ギャップファンドに採択され、同企業の技術担当取締役を務めており、九州大学発技術の医療への貢献を目指します。

株式会社メグウェルが目指す「やわらかいロボット」は、大きな発展の要素を秘めています。株式会社メグウェルのコアとなる技術は、柔軟な機構によって安全に、小型に、安価に脳卒中などによって、動かすことが難しくなった手指を動作支援することができます。このような九大発技術を活用し、リハビリテーションの効果を高めることを目指しています。



▲メグウェル製品 SMOVE

### 九大ギャップファンドプログラム

本学独自の学内プログラムとして、平成29年度より実施しています。今年度で第4期を迎え、これまで毎年10名の教員が、本資金を活用して事業化検証に取組んでいます。既に7件が会社を設立し、その他の事業シーズも外部資金獲得や事業会社・金融機関等との連携など事業化に向けた活動を積極的に行っております。



▲審査会の様子

パートナーとしての九州大学

# 地域のみなさまへ

## 「組織」対「組織」の産学官連携

企業の個々の研究開発ニーズを解決するだけでなく、各種の要素研究の融合を図りながら独創的なコンセプトを創出し、産学の両者が共同して国際競争力に優れた最先端の実用化技術を開発することを目的とした「組織対応型連携」を実施しています。組織対応型連携では、当該研究目的に沿う最適な研究グループを広く全学的に組織し、企業と契約を結びます。令和元年度には、新たに1社と連携契約を締結し、令和2年度4月時点では76におよぶ企業、国、自治体、研究機関等と連携して研究開発を行っています。また、伊都キャンパスおよび日本橋サテライト(東京都中央区)において、大学のシーズを紹介するイベント等を開催し、企業との連携拡大や大型共同研究の増大などを通じた研究の活性化や高度化の促進に取り組んでいます。

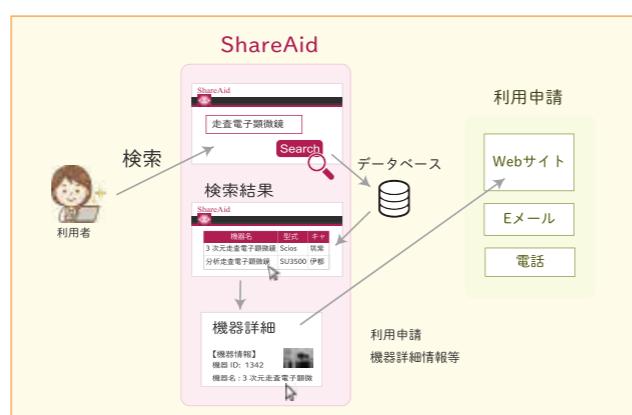


## 研究機器・設備の共用

本学の研究・教育の国際競争力向上等に資することを目指し、研究機器・設備の共同利用を全学的に促進しています。平成30年度に「研究機器・設備共用のための全学的なプラットフォーム」を構築し、平成31年4月にポータルサイト(ShareAid)を開設しました。現在、学内45研究組織の参画の下、研究機器・設備の共用に取り組んでいます。

ShareAidでは共用機器・設備の情報を検索することができ、学外者も利用可能です。

機器の利用に関しては機器詳細ページをご確認下さい。九州大学 研究機器・設備共用支援ポータルサイト  
[ShareAid](https://shareaid.kyushu-u.ac.jp/)  
<https://shareaid.kyushu-u.ac.jp/>



学術研究及び産学官連携支援のワンストップ窓口

## 学術研究・産学官連携本部

ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター(URA)制度の導入に伴い、研究活動をサポートする人材を組織的に配置し、学術研究及び産学官連携活動に資する情報提供と種々の外部資金獲得等に繋がる提案や、知的財産等にまつわる活動を含めた支援体制の強化を図るために、平成27年4月に学術研究・

産学官連携本部を設置しました。本学における学術研究及び産学官連携支援のワンストップサービスを提供し、社会と九州大学を結ぶ窓口として活動しておりますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ

学術研究・産学官連携本部  
産学官連携推進グループ

詳細は学術研究・産学官連携本部ウェブサイトをご覧ください。  
 TEL 092-802-5127 九大産学官 検索

## 重要文化財指定庚寅銘大刀レプリカを常設展示

平成31(2019)年3月に、本学伊都キャンパスから出土した鉄製大刀「庚寅銘大刀(こういんめいたち)」が国の重要文化財に指定されました。それを記念して、庚寅銘大刀の歴史的な重要性と価値について学内外に広く周知するため、本学においてレプリカを製作し、石ヶ原古墳跡展望展示室(伊都キャンパスイースト1号館9階)に常設展示することとしました。庚寅銘大刀は、平成23(2011)年9月に伊都キャンパス農場予定地内で、7世紀前半のものと考えられるG6号墳から出土しており、長さ74cmの鉄製大刀で、その背部分には金象嵌(きんぞうがん)で「大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀凡十二果□」の銘文が刻まれています。銘文内容は「めでたい庚寅の年の1月6日の庚寅の日に約12回鉄を鍛えてこの刀をつくった」とあり、干支から暦を表す元嘉暦(げんかれき)によって西暦570年に作られたもので

あることが判明しました。『日本書紀』によれば、元嘉暦は西暦554年に朝鮮半島の百濟(くだら)からもたらされた我が国最古の暦です。当時の日本で暦が実際使われていたことを示す資料として考古学、古代史上の重要な発見と評価されています。



▲重要文化財指定庚寅銘大刀レプリカ

## 地域に開かれた伊都診療所を開設

平成31年1月31日開所した伊都診療所に隣接して、令和元年11月1日には薬局も開設されました。伊都診療所は、「九州大学アクションプラン2015」の大きな柱のうち「学生・教職員が誇りに思う充実したキャンパスづくり」の取組の一つとして、設置されました。伊都キャンパス周辺に医療機関が乏しい現状において、学生・教職員が身体的・精神的に健康な状態を保つための環境の整備であり、また、地域住民等にも開かれた伊都キャンパス周辺の初期的な一次医療機関として機能し、必要に応じて九州大学病院や学外医療機関の専門医に患者を紹介する等、地域住民等の健康を守る役割も担い、社会への貢献を行っていきます。



▲伊都診療所 伊都診療所では、インフルエンザの予防接種も行っております。(予約制:092-802-6580)

## 「発想する空間」 フジイギャラリーの竣工

イフジ産業株式会社(会長 藤井徳夫氏・九州大学法学部昭和39年卒業)より本学が所蔵する学術標本等の展示や交流の支援を目的とした、ギャラリーに係る建設費用のご寄贈を受けました。今後、令和3年5月にプレオープン、10月に開催されるアカデミックフェスティバルでの本オープンを予定として準備を進めております。



▲フジイギャラリー

# 同窓生のみなさまへ

## 同窓生との連携協力 九州大学同窓会連合会・九州大学CEOクラブ

部局同窓会、地域同窓会等では、学生の就活支援や、若手社会人の勉強会など、九州大学ネットワークを活かした取組が多くみられるようになってきました。これらの同窓会組織のうち、約40団体を会員とする九州大学同窓会連合会では、各同窓会間や本学と情報交換を重ねながら各同窓会の運営や連携について模索しています。また、平成31年2月に会員制組織として再構築した、「同窓生で企業のCEOを会員とする「九州大学CEOクラブ」では、総会等を通じて、各会員間のネットワーク構築はもとより、九州大学の産学連携発展を期待し活動しています。今後も、こうした活動による本学と同窓生相互の発展を期待しています。



▲東京同窓会スマーフェスタ  
九州大学から東京同窓会への  
感謝状贈呈の様子



▲九州大学CEOクラブ

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/graduate/alumni/>

## 世代を超えた交流活動 アカデミックフェスティバル

毎年秋にアカデミックフェスティバルを実施しています。トークショー、交歓会、伊都キャンパス見学ツアー、高大連携の成果発表会などの催しに、同窓生、在学生、教職員、高校生、地域の方々に参加いただいております。本事業を通じ、本学との結びつきを一層深まることを期待しています。

令和2年度はコロナ禍のため、アカデミックフェスティバルの一部の企画を9月19日の開学記念行事の中で実施しました。



▲アカデミックフェスティバル2019の様子



[https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/graduate/academic\\_festival/](https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/graduate/academic_festival/)

## 「Asia Week」を初開催

地理的、歴史的につながりの深いアジアの大学等との研究教育活動を活発に展開してきた九州大学では、令和2年9月1～11日に、「Asia Week」を初めて開催しました。ウィズ/ポストコロナ時代における大学の果たすべき使命とは何か。国連SDGs達成に向けた貢献とは。「Asia Week」では、シンポジウムでのディスカッション等を通じて、新たな国際交流・国際連携体制の構築や社会的課題解決に向けた取り組みを発信しました。



▲若手研究者企画での集合写真

## 九大とつながるメールマガジン～九州大学生涯メールアドレスサービス

本学では、同窓生等を対象に、転送専用メールアドレスの付与及び本学の研究成果、講座、講演等を配信するメールマガジン「Qdai-mail通信」サービスを行っています。転送専用メールアドレスの付与やメールマガジン配信をご希望の方は、以下のURLから申込願います。

[https://kyudai.jp/entry\\_request.cgi](https://kyudai.jp/entry_request.cgi)



# 中村哲特別主幹教授の活動の功績



中村哲特別主幹教授が令和元年12月9日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

本学卒業生である中村先生は、長きにわたりペシャワール会現地代表/Peace Japan Medical Servicesの総院長としてパキスタンやアフガニスタンにて医療活動に従事する傍ら、農村復興のための水利事業を続けてこられました。平成26年に本学の特別主幹教授にご就任いただき、以来毎年高等研究院主催の講演会で本学学生・教職員・市民の皆様に対し貴重な経験をご講演いただきました。

令和2年9月に開催された「Kyushu University Asia Week 2020」の中では、中村哲先生に関係の深い3名の講演者(ペシャワール会・村上会長、藤田理事、日本電波ニュース社プロデューサー/カメラマン・

谷津氏)による講演、学生登壇とのジョイントフォーラムを開催し、中村先生の遺志継ぐ記念講座の設立とメモリアル・アーカイブの設置を発表しました。

メモリアル・アーカイブは、ペシャワール会やご遺族の協力を得ながら、中央図書館4階のきゅうとコモンズの一角に、中村先生の生い立ちからアフガニスタンでの長年にわたる活動実績等について、図書、写真、映像等を展示するコーナーを設置する予定です。加えて、学術情報リポジトリを活用して、関係する著作物、映像等を一元的に検索できるデジタルアーカイブの構築及びインターネット公開を計画しています。

学歴 昭和48年3月 九州大学医学部医学科卒業

職歴 昭和48年 国立肥前療養所勤務  
昭和49年 大牟田労災病院勤務  
昭和53年 馬場病院勤務  
昭和59年 ペシャワールミッション病院らい病棟医長  
(パキスタン・ペシャワール)ペシャワール会 現地代表  
昭和61年 JAMS(ジャパン・アフガン・メディカルサービス)  
設立・顧問(パキスタン・ペシャワール)  
平成 6年 PLS(ペシャワール・レブロシ・サービス)  
病院設立 院長(パキスタン・ペシャワール)  
平成10年 PMS(ペシャワール会医療サービス)病院 総院長  
(JAMSとPLSを統合) (パキスタン・ペシャワール)

平成 22年 PMS(ピース・ジャパン・メディカルサービス)  
(平和医療団・日本) 総院長(アフガニスタン)  
平成 26年 九州大学高等研究院特別主幹教授

学術賞・受賞  
平成 8年 厚生大臣賞(厚生省)  
平成 15年 マグサイサイ賞「平和と国際理解部門」  
平成 28年 第8回 KYOTO 地球環境の殿堂入り  
平成 29年 アフガニスタン国ガニ大統領より  
「ガジ・ミール・マスジット・カーン勲章」授与  
平成 30年 土木学会技術賞受賞  
令和 元年 内閣総理大臣感謝状授与  
アフガニスタン国ガニ大統領より  
アフガニスタン・イスラム共和国「市民証」授与

# 九州大学の活動を支える財務状況

## 財務諸表

国立大学法人は、決算書(財務諸表等)を作成し、翌年度の6月30日までに文部科学大臣へ提出し、承認を得ることとされています。

<b>1 貸借対照表</b>	3月31日における財政状態を明らかにするものです。
<b>2 損益計算書</b>	4月1日～3月31日の1年間の運営状況を明らかにするもので、費用、収益や利益の発生状況を表します。
<b>3 キャッシュ・フロー計算書</b>	4月1日～3月31日の1年間の資金の流れを一定の活動別に区分して表します。
<b>4 利益の処分又は損失の処理に関する書類</b>	貸借対照表で算定された当期末処分利益と損益計算書で算定された当期総利益の処分の内容を表します。
<b>5 国立大学法人等業務実施コスト計算書</b>	教育・研究・診療等の業務運営に要した費用(コスト)のうち、国民の税金で賄われている金額を表します。
<b>6 附属明細書</b>	上記1～5の書類の内容を補足します。
<b>7 事業報告書</b> ※	法人の概要、財務情報と事業内容を関連表示したものです。
<b>8 決算報告書</b> ※	年度計画における予算額と実際に執行した決算額を対比することで、予算の見積りとその後の事業の推移を明らかにするものです。

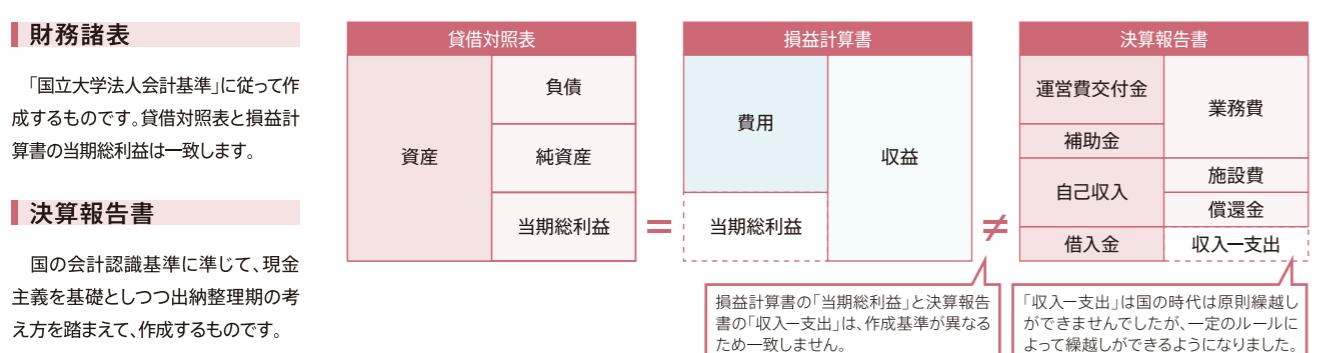
※ 1～6が財務諸表です。7及び8は財務諸表に添付して提出することとされている書類です。

各事業年度の財務諸表等は、以下のホームページにて公表しています。

九州大学ホームページ>九州大学について>公表事項>財務諸表等 [http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial\\_statements/](http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial_statements/)

## 作成基準が異なる二通りの決算書の作成

財務諸表と決算報告書は、作成基準が異なります。



## 国立大学法人会計基準の特徴について

「国立大学法人会計基準」は複式簿記、発生主義という点では企業会計原則と同じですが、次のような国立大学法人の特性を踏まえて、企業会計原則とは異なる特有の会計処理を行っています。

## 国立大学法人の主な特性

- 公共的な性格から利益獲得、独立採算を前提とせず、国から財源措置があります。
- 建物整備は国が決定し予算措置される等、大学単独の判断で意思決定が完結しない場合があります。
- 民間企業のような資本主を制度上予定せず、利益が配当されることはありません。

## 国立大学法人特有の会計処理

### 収益の認識

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などは研究教育等の業務を実施する義務があることから、受領した際に一旦債務(負債)に計上します。その後、業務実施に伴い収益に振り替える会計処理をします。

例:運営費交付金で業務を実施

年度決算	
①(損益が均衡する場合)	②(利益が生じる場合)
損益計算書(P/L)	損益計算書(P/L)
教育経費 100	運営費交付金 収益 100
教育費 80	運営費交付金 収益 100
利益 20	

年度決算①…通常どおり業務を行えば、損益が均衡します。 年度決算②…費用が抑えられれば、利益が発生し当期末処分利益となります。

○運営費交付金債務の収益化基準

期間進行基準:時の経過に伴い業務が実施されたとみなして運営費交付金債務を収益化する基準(原則)

業務達成基準:業務の実施に伴い運営費交付金債務を収益化する基準(プロジェクト研究等)

費用進行基準:費用発生額と同額の業務が実施されたとみなして運営費交付金債務を収益化する基準(退職給付金等)

### 損益均衡

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などで固定資産を取得した場合、受領時の債務(負債)を「資産見返負債」に振り替えます。固定資産の減価償却に伴って資産見返負債は資産見返負債戻入という収益に振替えられ、これらの処理により資産・負債・収益・費用が均衡します。

例:運営費交付金で資産を取得

年度決算(減価償却)	
貸借対照表(B/S)	資産取得
固定資産 80	貸借対照表(B/S)
損益計算書(P/L)	資産見返負債 100
減価償却費 20	資産見返負債戻入 20

### 損益に影響しない会計処理

施設費等は、施設等の更新が必要なときに出資者である国が責任をもって措置するものであることから、費用として認識しないこととなっています。したがって、償却資産を取得した場合、取得価格を資本剩余金(純資産)に振替え、減価償却時には減価償却費ではなく損益外減価償却累計額(資本剩余金のマイナス科目)を計上して、資本剩余金を減少します。

例:国から措置された施設費で資産を取得

年度決算	
貸借対照表(B/S)	資産取得
固定資産 100	貸借対照表(B/S)
資本剩余金 100	資本剩余金 100

### 目的積立金と積立金

未処分利益のうち、経営努力により生じた利益であると文部科学大臣から承認を受けた金額は目的積立金となり、中期計画で定められた剩余金の使途の範囲内において、翌年度以降に使用することが可能になります。

未処分利益
経営努力で発生した利益 (現金の裏づけのある利益)
会計処理上の利益 (現金の裏づけのない利益)
目的積立金 (翌事業年度以降に使用)
積立金 (損失補填にのみ使用)

国立大学法人会計基準の特徴については、以下のホームページにも解説を掲載しています。

九州大学ホームページ>九州大学について>公表事項>国立大学法人会計基準の特徴について [http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/as\\_characteristic](http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/as_characteristic)

# 貸借対照表 B/S (Balance Sheet)

科目	H29事業年度	H30事業年度	R1事業年度	前年比
【資産の部】	472,775	464,492	455,198	▲9,293
I 固定資産	411,389	411,020	401,813	▲9,206
1 有形固定資産	404,006	399,090	386,310	▲12,780
土地	185,139	185,097	181,914	▲3,183
建物、構築物	171,766	166,901	159,485	▲7,416
設備(機械装置、工具器具備品、医療用機器)	24,864	25,701	23,137	▲2,564
建設仮勘定	2,353	1,617	2,074	456
その他	19,883	19,772	19,699	▲73
2 無形固定資産	756	696	684	▲11
3 投資その他の資産	6,626	11,233	14,818	3,585
II 流動資産	61,385	53,471	53,384	▲87
現金及び預金	46,144	41,604	35,136	▲6,468
医業未収入金	8,820	9,149	9,154	4
有価証券	3,000	700	6,699	5,999
その他	3,421	2,017	2,394	376
【負債の部】	188,241	186,416	180,521	▲5,894
I 固定負債	141,326	139,988	131,150	▲8,837
固定資産見返負債	50,438	49,352	47,414	▲1,938
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	9,636	7,905	6,262	▲1,642
長期借入金	70,663	69,629	68,771	▲858
長期リース債務	4,117	5,324	4,162	▲1,161
その他	6,471	7,776	4,539	▲3,236
II 流動負債	46,915	46,427	49,370	2,942
運営費交付金債務	2,485	3,288	4,495	1,207
寄附金債務	15,282	15,778	16,548	770
一年以内償還予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	1,860	1,731	1,642	▲88
一年以内返済予定長期借入金	2,792	2,887	2,793	▲94
未払金	16,899	14,590	13,861	▲728
リース債務	1,675	1,576	1,560	▲16
その他	5,919	6,576	8,469	1,892
【純資産の部】	284,533	278,076	274,676	▲3,399
I 資本金	146,151	146,151	146,151	-
II 資本剰余金	124,447	120,488	116,136	▲4,351
III 利益剰余金	13,935	11,436	12,389	952
前中期目標期間積越立金	8,803	6,587	6,586	▲1
教育研究診療等充実積立金(目的積立金)	2,087	1,538	2,257	719
積立金	626	1,510	2,109	599
当期末処分利益	2,417	1,800	1,435	▲364
(うち当期総利益)	(2,417)	(1,800)	(1,435)	(▲364)

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

科目的説明
<p><b>建設仮勘定</b></p> <p>建物や構築物は、着工から竣工まで一定の時間がかかるため、建設費用の一部を先に支払うことがあります。この前払い相当額を建物等が竣工するまでの間、一時的に計上しておく科目です。</p> <p><b>大学改革支援・学位授与機構債務負担金</b></p> <p>旧:国立学校特別会計から国立大学財務・経営センター(現:大学改革支援・学位授与機構)が承継した財政融資資金借入金で、国立大学法人等が債務を負担することとされた相当額の残高です。借り入れたお金は、病院の診療施設、最先端医療機器の整備などに使用しています。</p> <p><b>長期借入金</b></p> <p>国立大学が法人化された平成16年4月以降に、大学改革支援・学位授与機構や民間金融機関から借り入れたお金の残高です。大学改革支援・学位授与機構から借り入れたお金は病院の診療施設、最先端医療機器の整備に、民間金融機関から借り入れたお金は統合移転事業に使用しています。</p>

**令和元事業年度決算の概要** 「投資その他の資産」「有価証券」は増加していますが、「建物、構築物」「現金及び預金」等の減少要因の方が大きいため、資産の部は対前年度比で92億円減の4,551億円となりました。

## 前事業年度と比較した主な増減要因

土地	建物、構築物	投資その他の資産、現金及び預金、有価証券	大学改革支援・学位授与機構債務負担金、長期借入金	長期リース債務	資本剰余金
箱崎キャンパスの一部及び香椎浜留学生会館の跡地を売却したこと及び職員宿舎(博多区・東区・南区)の土地を減損処理したことにより31.8億円減少しております。	総合臨床心理センター(伊都)及び建築構造実験棟(伊都)の竣工等で35.2億円増加した一方で、減価償却等により減少したため、全体で74.2億円減少しています。	資金運用に伴う投資有価証券の取得等により投資その他の資産が35.8億円、有価証券が59.9億円増加し、現金及び預金は減少しています。	新たなリース資産の取得が減少したことにより長期リース債務は減少しています。	建物の取得及び箱崎キャンバスの売却により36.8億円増加した一方で、箱崎キャンパスの建物撤去及び伊都キャンパス建物等の減価償却が増加したため、全体で43.5億円減少しています。	教育経費、研究経費

# 損益計算書 P/L (Profit & Loss Statement)

科目	H29事業年度	H30事業年度	R1事業年度	前年比
I 経常費用	124,046	129,600	125,206	▲4,394
業務費	119,439	124,741	120,296	▲4,445
教育経費	5,260	6,359	5,204	▲1,154
研究経費	11,708	15,166	12,250	▲2,916
診療経費	31,732	32,695	34,357	1,661
教育研究支援経費	3,722	3,887	3,357	▲529
受託研究費	9,204	9,095	6,940	▲2,155
共同研究費	2,079	2,340	1,989	▲350
受託事業費等	670	671	723	51
人件費	55,059	54,525	55,473	948
一般管理費	4,076	4,425	4,607	182
財務費用	481	389	286	▲102
雑損	49	43	14	▲29
II 臨時損失	842	479	669	190
固定資産除却損	606	466	427	▲39
減損損失	12	1	20	18
災害損失	29	11	4	▲6
その他	193	-	217	217
費用合計	124,888	130,079	125,876	▲4,203
I 経常収益	126,793	128,980	126,910	▲2,070
運営費交付金収益	39,461	40,565	38,461	▲2,104
授業料収益	9,084	9,054	9,171	116
入学金収益	1,493	1,493	1,511	18
検定料収益	266	266	266	▲0
附属病院収益	46,888	48,359	50,250	1,891
受託研究収益	9,589	9,788	9,347	▲440
共同研究収益	2,247	2,490	2,595	105
受託事業等収益	690	691	779	88
寄附金収益	2,994	2,903	2,938	34
補助金等収益	3,983	3,740	2,867	▲872
施設費収益	318	411	686	274
資産見返負債戻入	6,281	5,560	4,822	▲737
財務収益	29	38	44	5
雑益	3,458	3,610	3,161	▲448
その他	3	4	4	▲0
II 臨時利益	83	49	359	310
固定資産売却益	0	0	0	0
資産見返負債戻入(臨時)	83	48	159	111
その他	0	0	200	199
収益合計	126,876	129,029	127,270	▲1,759
当期純利益(収益合計-費用合計)	1,988	▲1,049	1,394	2,444
目的積立金取崩額	429	2,850	40	▲2,809
当期総利益(当期純利益+目的積立金取崩額)	2,417	1,800	1,435	▲364

※単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

## 令和元事業年度決算の概要

経常費用は、伊都キャンパス移転事業完了に伴う「教育経費」「研究経費」等の減少により、対前年度比で44億円減の1,252億円となりました。また病院の経営努力により「附属病院収益」は増加しましたが、運営費交付金や目的積立金を財源とする移転事業費の減少に伴い「運営費交付金収益」及び「目的積立金取崩額」等の収益が減少したため、当期総利益は対前年度比で3.6億円減の14億円となりました。

## 前事業年度と比較した主な増減要因

教育経費、研究経費	受託研究費、共同研究費、受託事業費等	運営費交付金収益、目的積立金取崩額	附属病院収益
前事業年度まで受託研究費、共同研究費及び受託事業費等として計上していた間接経費財源による業務費について、当事業年度より、目的別に各費目(研究経費、人件費及び一般管理費等)に区分して表示することとしたため減少しています。当該変更による各費目への影響額は、22億円となります。	伊都キャンパス移転事業の経費(消耗品費、業務委託費等)が減った事により減少しております。	伊都キャンパス移転事業の完了により施設設備や移転経費が減ったため見合の収益が減少しています。	伊都キャンパス移転事業の完了により施設設備や移転経費が減ったため見合の収益が減少しています。

# キャッシュ・フロー計算書

科目	H29事業年度	H30事業年度	R1事業年度	前年比
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	12,165	11,242	8,348	▲ 2,894
運営費交付金収入	41,567	43,059	40,601	▲ 2,458
附属病院収入	46,707	48,011	50,247	2,236
学生納付金収入	10,287	10,038	10,009	▲ 29
補助金及び受託研究等収入	16,653	17,984	15,465	▲ 2,518
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 47,030	▲ 52,006	▲ 49,263	2,743
人件費支出	▲ 57,634	▲ 57,845	▲ 58,134	▲ 288
その他	1,614	2,000	▲ 578	▲ 2,579
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 29,574	▲ 944	▲ 8,154	▲ 7,209
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	15,814	▲ 5,938	▲ 5,161	776
IV 資金に係る換算差額	-	0	0	▲ 0
V 資金増減額( I+II+III+IV)	▲ 1,593	4,360	▲ 4,968	▲ 9,328
VI 資金期首残高	17,838	16,244	20,604	4,360
VII 資金期末残高(V+VI)	16,244	20,604	15,636	▲ 4,968

\*単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

## 令和元事業年度決算の概要

附属病院収入の増加及び伊都キャンパスの移転経費の支出が減少した一方で、補助金及び受託研究等収入が減少し業務活動によるキャッシュ・フローは83億円(対前年度比▲28億円)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは▲81億円(対前年度比▲72億円)、財務活動によるキャッシュ・フローは▲51億円(対前年度比+7億円)であり、資金期末残高は156億円(対前年度比▲49億円)となりました。

### 区分の説明

#### I 業務活動によるキャッシュ・フロー

教育・研究・診療等の大学の通常業務の実施に伴う資金の収支状況を表します。教育や研究、診療などに必要な物品・サービスの購入や、学生のみなさまからの授業料、患者のみなさまからの附属病院収入などを計上しています。

#### II 投資活動によるキャッシュ・フロー

将来に向けた運営基盤確立のための投資の実施に伴う資金の収支状況を表します。定期預金や有価証券等による資金運用や固定資産の取得・売却などを計上しています。

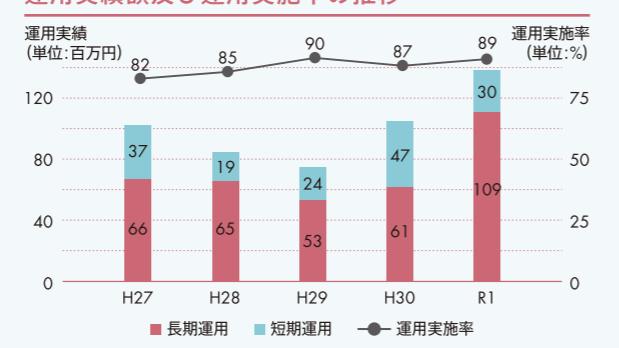
#### III 財務活動によるキャッシュ・フロー

資金調達や返済などに伴う資金の収支状況を表します。病院の整備や統合移転事業のために大学改革支援・学位授与機構や民間金融機関から借り入れたお金やその返済費用、リース契約により導入した設備の支払額などを計上しています。

### 財務活動トピックス

国立大学の法人化以降、毎年運営費交付金が削減されている中で、多様な収入源の確保が課題となっています。本学においては、当面支払いを予定していない手元の余裕金を財源として、従来からの国債等の債券の購入や定期預金等に加え、平成30年度より国の法律改正を受け、元本保証のある金融商品から、収益性が高く、リスクを伴う金融商品(外国債券等)の運用を開始することで、令和元年度は約1.4億円の運用収入を得ています。この活動によるお金の動きは、「投資活動によるキャッシュ・フロー」として表れます。金利の下落が進む状況下において、本学では綿密な資金繰計画をたてることで滞留資金の圧縮を図り、今後も機動的かつ効率的な運用を行うことにより、更なる運用益の確保を目指します。

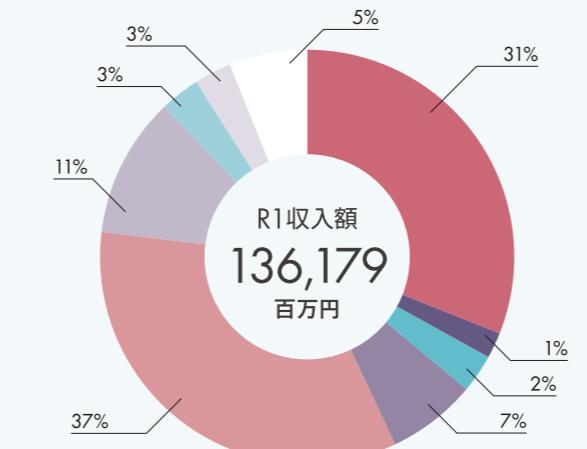
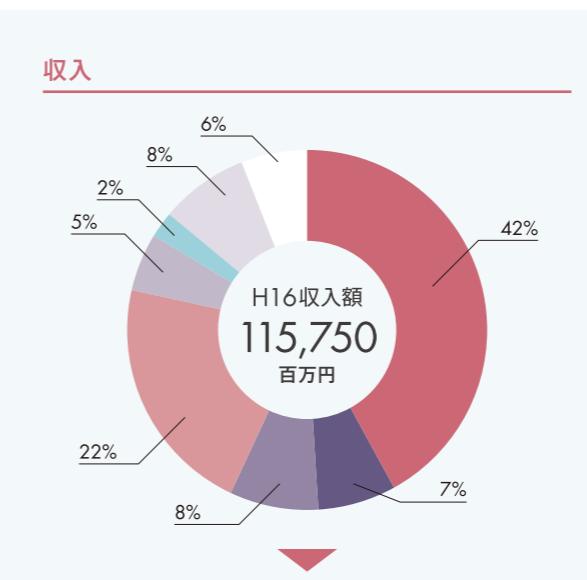
#### 運用実績額及び運用実施率の推移



# 財務構造(決算報告書)

### トピックス

平成16年度の法人化当初から10年以上経過し、本学の財務構造は大きく様変わりしています。収入面では、国から交付を受ける運営費交付金が減少する中、附属病院収入や産学連携等研究収入が大きく増加しており、中でも附属病院収入は、病院の経営努力により增收を続け、今では運営費交付金を上回っています。一方、支出面では、事業規模の増加に伴い全体的に増加していますが、とりわけ診療経費の増加が顕著となっています。



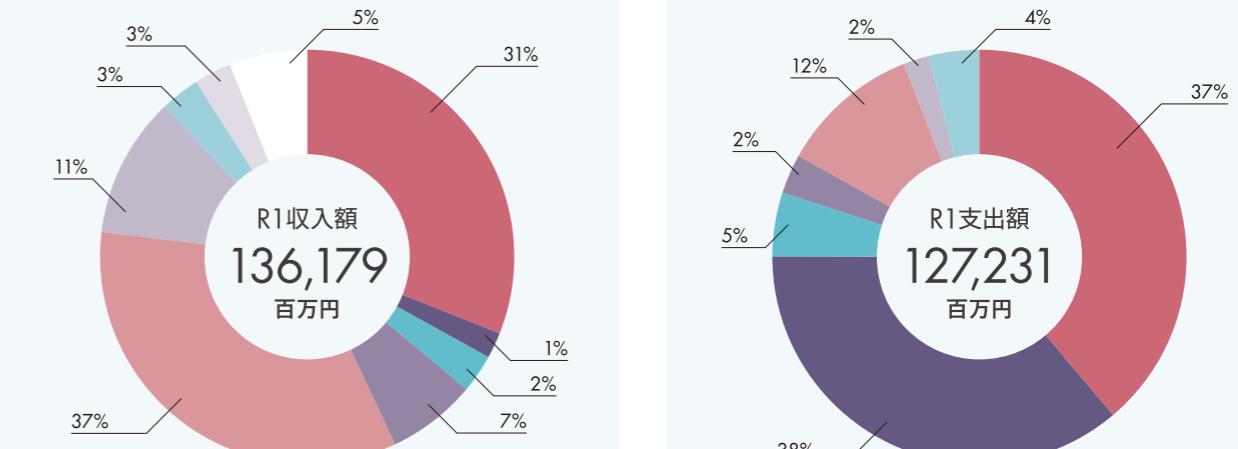
	H16	R1	単位:百万円 対H16比
運営費交付金	48,516	41,950	▲ 6,566
施設整備費補助金	8,148	1,627	▲ 6,521
補助金等収入	-	2,828	2,828
学生納付金収入	9,456	10,009	553
附属病院収入	24,849	50,247	25,398
産学連携等研究収入	6,058	14,314	8,256
寄附金収入	2,637	3,638	1,001
長期借入金収入	9,073	4,394	▲ 4,679
その他	7,011	7,167	156

\*上記のグラフは、決算報告書の決算額です。

\*H16の決算報告書では「一般管理費」という項目がありますが、便宜上このグラフでは「教育研究経費」「診療経費」に按分して計上しております。

\*上記の産学連携等研究収入などの外部資金は、他機関への分担金等を除外した額を計上しているため、P37に記載の受入額とは一致しません。

\*単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。



	H16	R1	単位:百万円 対H16比
運営費交付金	45,909	47,031	1,122
施設整備費	29,307	48,888	19,581
補助金等	-	2,976	2,976
産学連携等研究経費	6,022	14,573	8,551
寄附金事業費	2,214	2,869	655
長期借入金償還金	4,689	4,796	107

# 財務指標

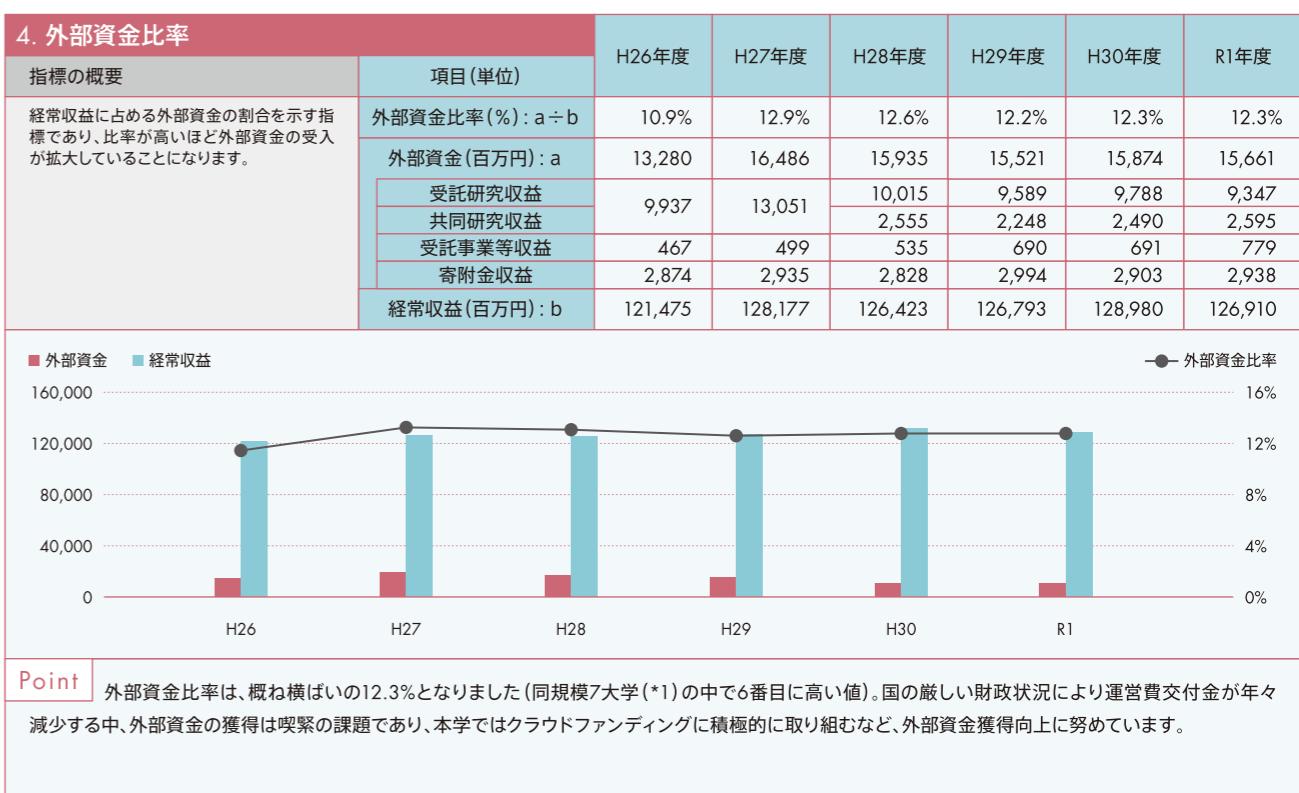
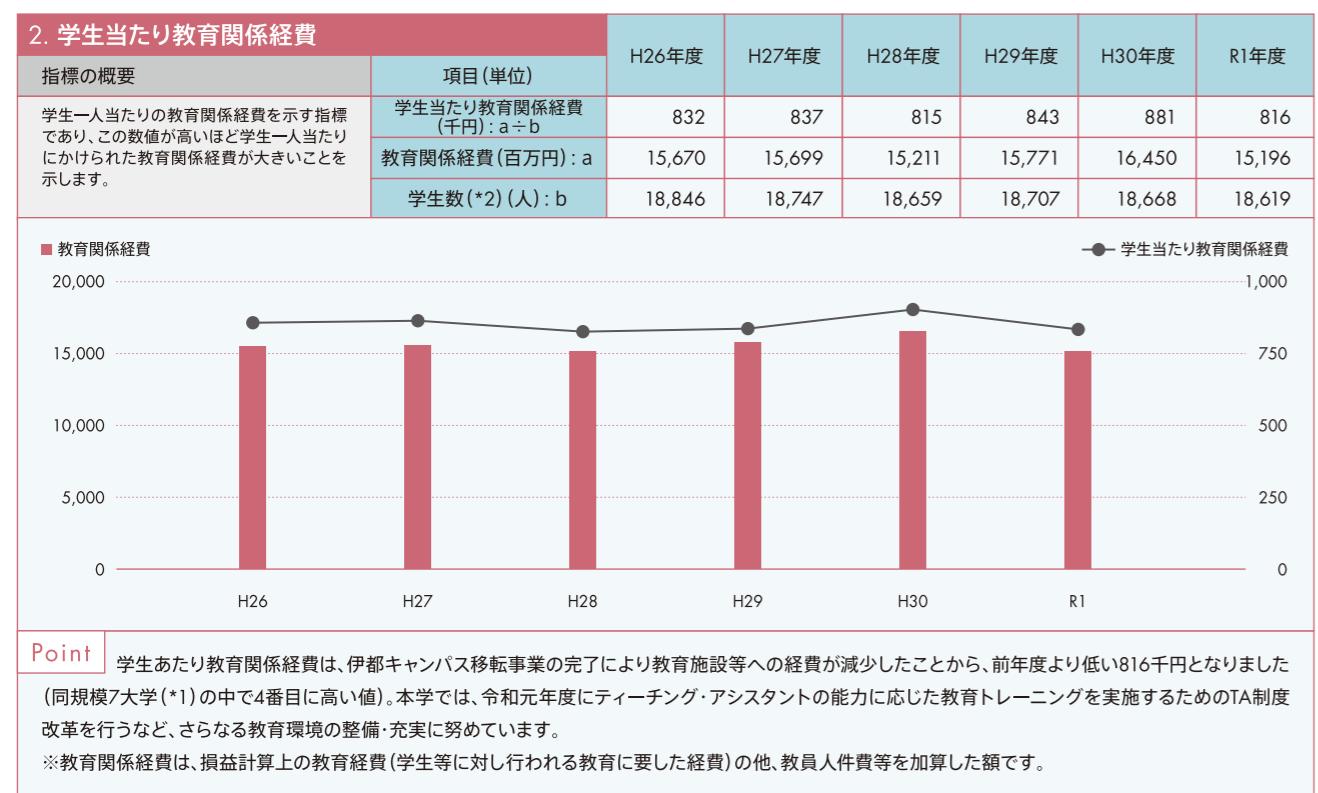
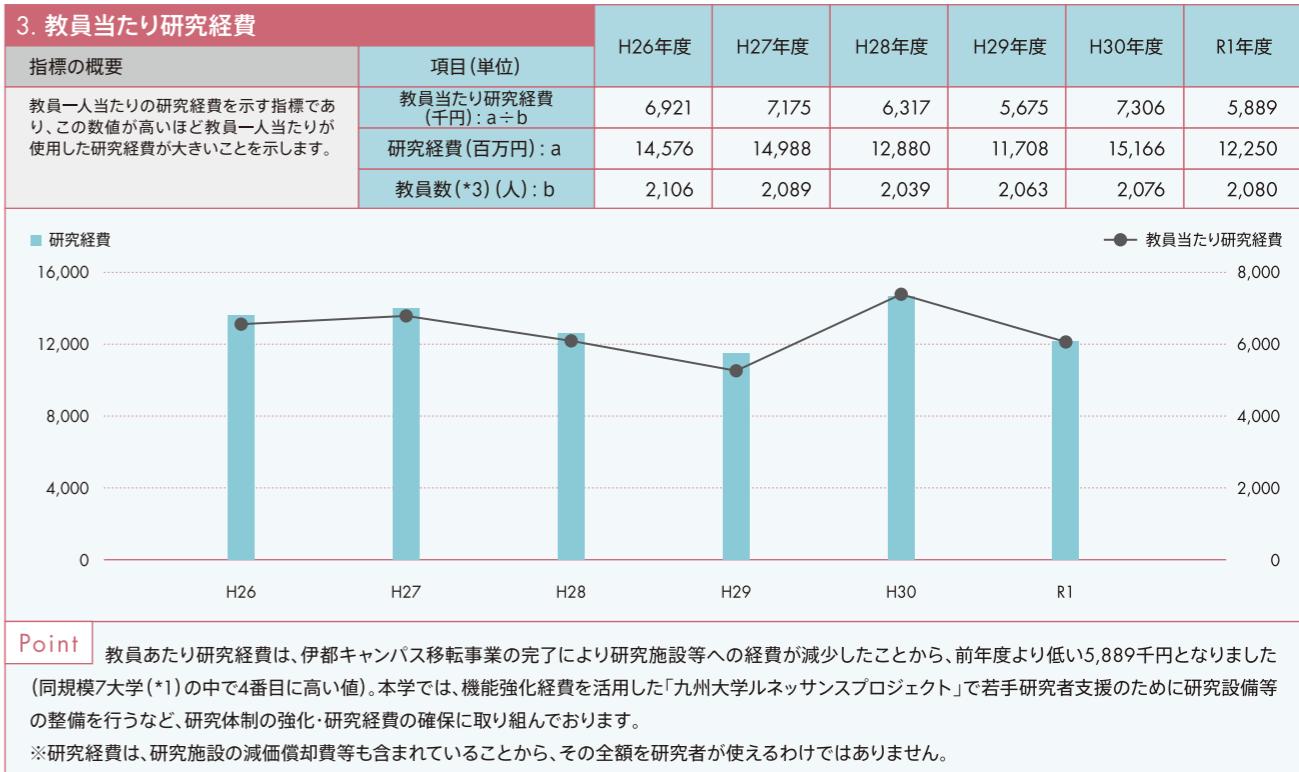
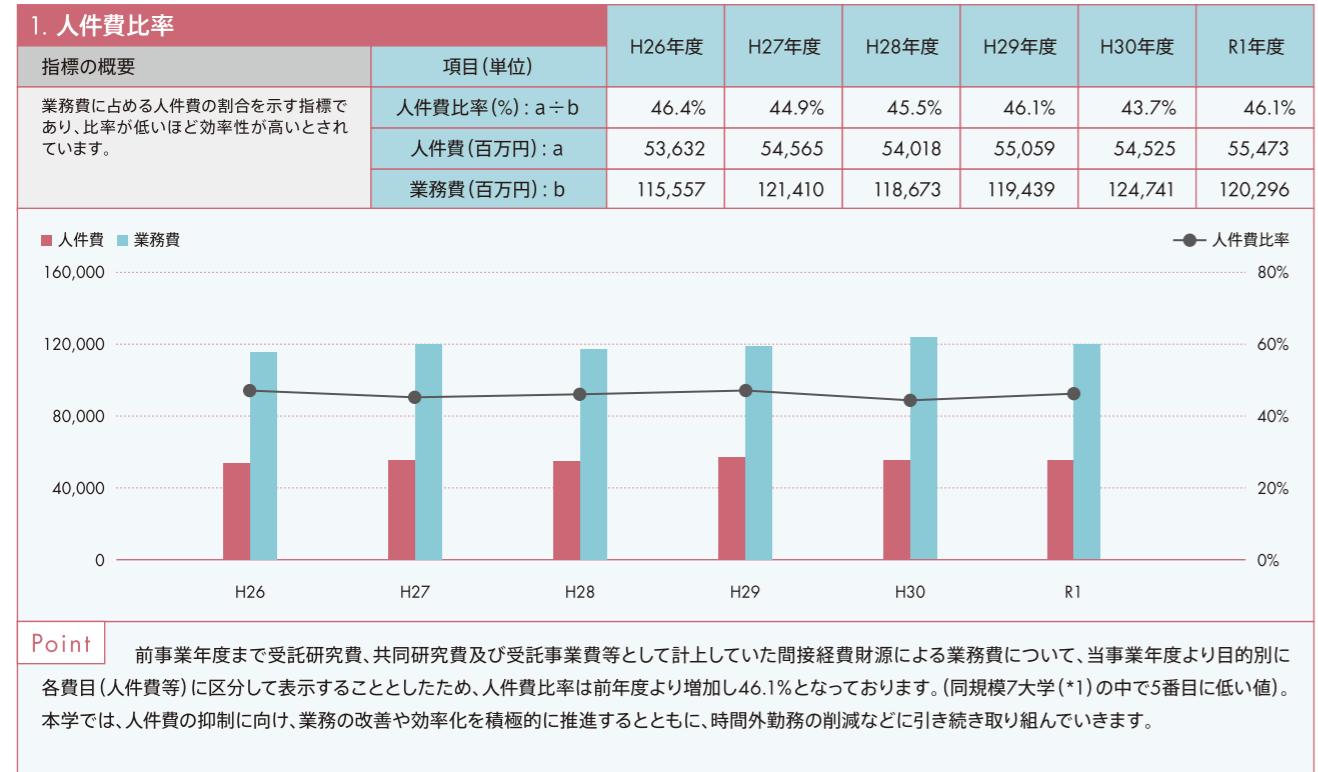
財務指標とは、国立大学法人の財政状態と運営状況を総合的に把握し分析する上で基礎データとなるものです。国立大学法人の教育研究活動自体を評価するものではありませんが、活動状況を多面的に把握するための参考情報の一つとして活用されることが期待されています。今回は、平成26事業年度から令和元事業年度の6事業年度の推移をまとめました。

\*1 同規模7大学(北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学)

\*2 5月1日を基準日とした学生(学部生、大学院生)数

\*3 5月1日を基準日とした教員(常勤)数

\*4 単位未満切捨のため、表上の計算が合わない箇所があります。

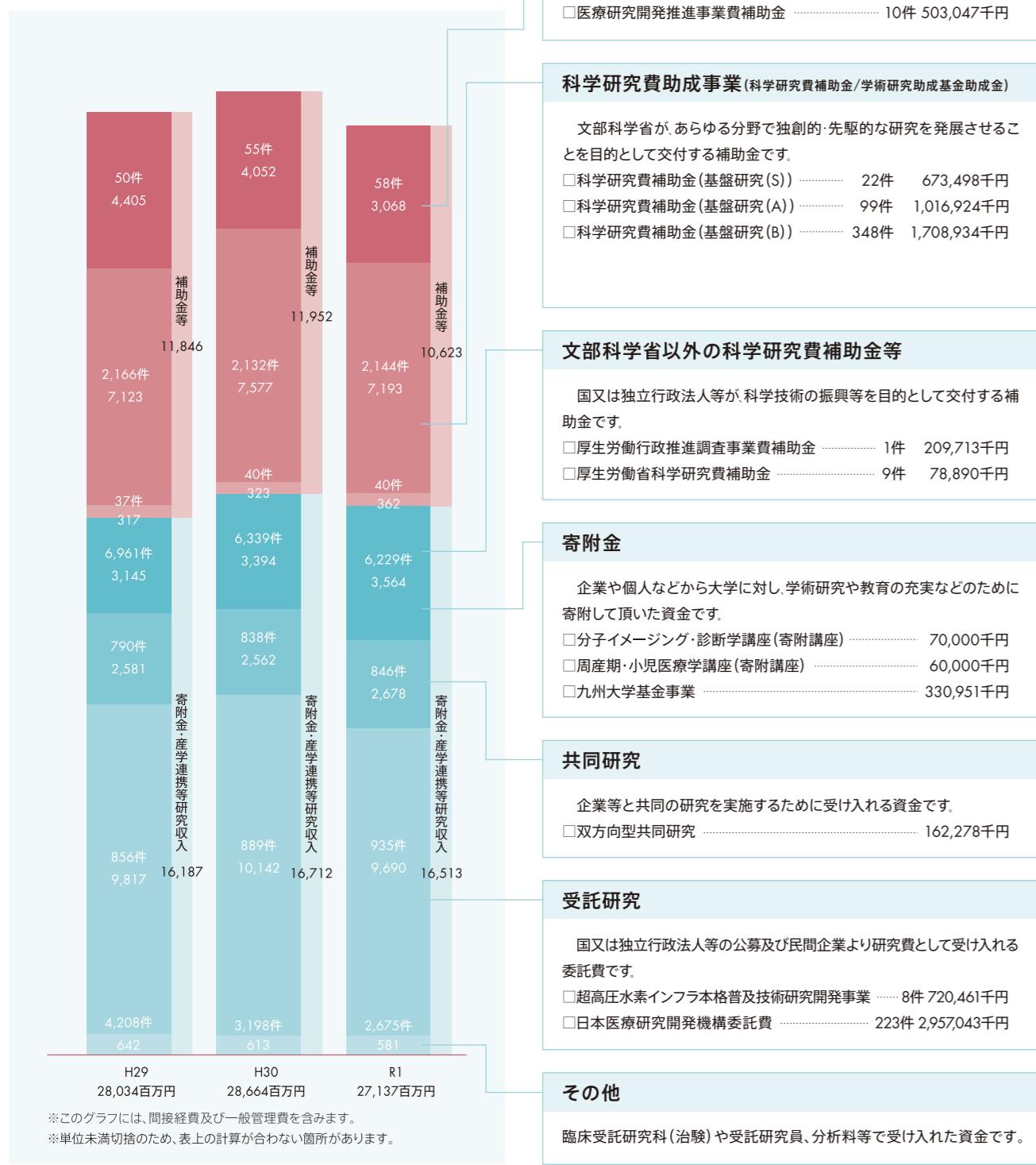


# 外部資金受入

本学では、国から交付される運営費交付金のほかに、教育・研究活動を進展させるために不可欠である外部資金(科学研究費助成事業・産学連携等研究収入・寄附金等)の獲得に努めています。

## トピックス1

外部資金の受入額は、概ね同額で推移していますが、寄附金の受入件数は増加傾向にあります。本学では、より多くの方々に寄附していただけるよう、本学の施設利用や全国のホテル・レストランでの割引サービスなど、本学へ寄附していただいた方への特典の充実を図っています。詳細は、P41を参照してください。



## 補助金

文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム、医療研究開発推進事業費補助金、研究拠点形成費等補助金などがあります。

- 世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI) ..... 1,012,243千円  
(元年度受入分)
- 医療研究開発推進事業費補助金 ..... 10件 503,047千円

## 科学研究費助成事業(科学研究費補助金/学術研究助成基金助成金)

文部科学省が、あらゆる分野で独創的・先駆的な研究を発展させることを目的として交付する補助金です。

- 科学研究費補助金(基盤研究(S)) ..... 22件 673,498千円
- 科学研究費補助金(基盤研究(A)) ..... 99件 1,016,924千円
- 科学研究費補助金(基盤研究(B)) ..... 348件 1,708,934千円

## 文部科学省以外の科学研究費補助金等

国又は独立行政法人等が、科学技術の振興等を目的として交付する補助金です。

- 厚生労働行政推進調査事業費補助金 ..... 1件 209,713千円
- 厚生労働省科学研究費補助金 ..... 9件 78,890千円

## 寄附金

企業や個人などから大学に対し、学術研究や教育の充実などのために寄附して頂いた資金です。

- 分子イメージング・診断学講座(寄附講座) ..... 70,000千円
- 周産期・小児医療学講座(寄附講座) ..... 60,000千円
- 九州大学基金事業 ..... 330,951千円

## 共同研究

企業等と共同の研究を実施するために受け入れる資金です。

- 双向型共同研究 ..... 162,278千円

## 受託研究

国又は独立行政法人等の公募及び民間企業より研究費として受け入れる委託費です。

- 超高圧水素インフラ本格普及技術研究開発事業 ..... 8件 720,461千円
- 日本医療研究開発機構委託費 ..... 223件 2,957,043千円

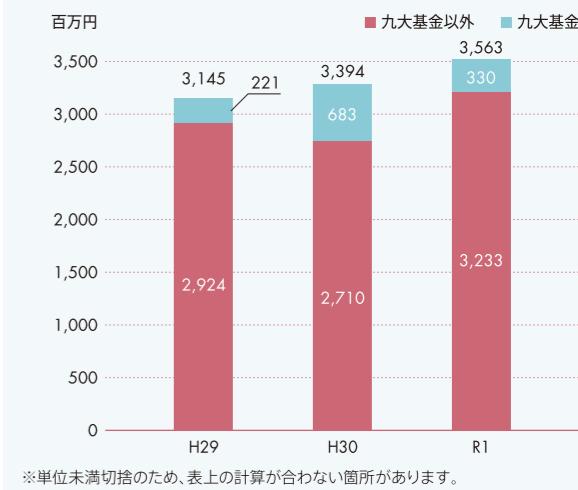
## その他

臨床受託研究科(治験)や受託研究員、分析料等で受け入れた資金です。

## 科学研究費助成事業受入額の推移



## 寄附金受入額の推移



## 共同研究受入額の推移



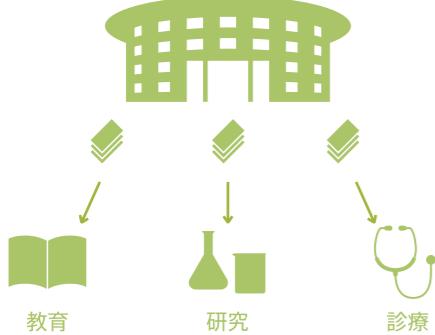
## トピックス2

本学では外部資金の獲得向上のため、若手研究者のための学内説明会や、学外から講師を招へいして個別相談会などを開催しています。また、「科研費申請・獲得ハンドブック」を日本語版に加え、英語版も作成し、全教員へ配布しています。このほか、本学における各種外部資金獲得状況や他大学との比較により本学の研究力の現状を分析した「研究戦略データ集」を全教員に配布し、学内において外部資金の獲得意欲の向上に努めています。



# 九州大学基金の取組

## 九州大学基金



九州大学基金は平成23年に、百周年記念事業の一つとして創設されました。グローバル化する世界の学術リーダーとして「知の新世紀を拓く」拠点の構築を目指し、世界の人々から支持される質の高い高等教育を一層推進し、より善き知の探求と創造・展開の拠点として、人類と社会に真に貢献する研究活動を促進していくため、九州大学の教育研究、診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的としています。

### 九州大学基金

創設時	33億4,077万6,957円
令和元年度末残高	35億7,735万3,159円
寄附累計(令和元年度末)	18億3,901万3,351円

### 九大基金寄附額累計と年度末保有額



### 支援助成事業 各年度決定額



## 九大会員のご案内



九州大学では、年額2千円以上の継続寄附者、もしくは一括1万円以上の寄附者を対象とした『九大会員』制度を実施しています。社会のみなさまとよりよいネットワークを築き、社会とともに発展する大学をめざしています。

### 〈入会(九州大学基金への寄附)の方法〉

九大会員は卒業生や教職員、学生の保護者のみなさまをはじめ、本学を応援していただける方であればどなたでもご入会いただけます。1回のみのご寄附のほか、ご希望の金額・サイクルを設定することで継続的にご支援いただくことも可能です。

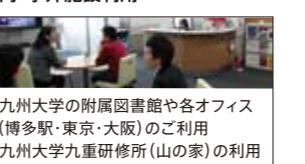
### 〈会員証の発行〉

九大会員のみなさまには、ご寄附申し込み後、九大会員証を発行します。平成25年度より発行を開始し、令和元年度末現在約7,500人の九大会員に九州大学基金を支援していただいている。また、平成30年5月より、高額寄附者を顕彰するために終身会員制度を導入し、基準額に達した寄附者へは終身会員証(有効期限なし)を随時発行していきます。



### 〈九大会員の特典〉

九大会員のみなさまには、学内外の施設利用やホテル・レストランの割引、生涯メールアドレスサービスなどのさまざまな特典をご用意しております。特典は随时更新し、みなさまに喜んでいただける特典の充実に努めています。最新情報は九州大学基金ウェブサイトに掲載しています。ぜひとも本学を応援していただき、九大会員となってください。

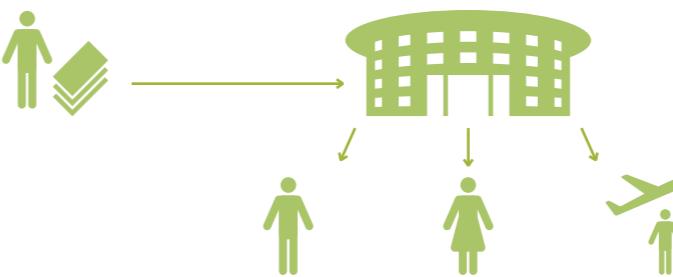


### 〈税法上の優遇措置〉

- 所得税の寄附金控除を受けることができます。
- 修学支援事業基金は税額控除の対象です。  
(税額控除: 小口寄附の減税額が大きくなる制度)
- 自治体の条例で本学への寄附が控除対象として指定されている場合、住民税の控除を受けることができます。
- 法人からの寄附は法人税法上の全額損金算入を認められている指定寄附金となります。

## 寄附の種類

### 一般寄附



特に使途を特定しない一般寄附は、主に学生を対象とした支援助成事業に活用しています。学生は、潤沢な資金を持ち合わせていない場合が多いことから、みなさまからいただいた寄附金が頼みの綱となっています。支援を受けた学生からの声を、一部ではございますが紹介します。

### 山川賞

山川健次郎初代総長の名を冠した賞であり、九州大学教育憲章が指向する人間性、社会性、国際性、専門性に対して優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、年間100万円を最短修業年限まで支給します。令和元年度は、29名の学生に総額2,900万円の奨学金を支給しました。

#### 学生の声 世界の人権問題について学ぶ貴重な機会をいただきました



▲内田佳那子さん:法学部4年  
(写真右端)

アメリカで国際人権法や世界の様々な人権問題を体系的・理論的に学んで帰国した私は、実際にこのような知識を現場に生かし、人権保護のために働く人々に会ったり職場を体験したりする機会を強く望んでいました。大変有難いことに、指導教員にフィリピン人権委員会でのインターンシップをご紹介いただき、令和元年9月に約3週間インターンシップをさせていただきました。短期間ではありましたが、日本ではない人権委員会という独立した公的人権監視機関で会議の記録係やリサーチを担当させていただき、当機関の働きや他機関との連携を学ばせていただくなど、大変貴重な機会をいただきました。

### 海外留学渡航支援

学生が海外の大学等で学ぶことにより、語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・行動力を磨き、異文化に対する理解と国際感覚の醸成を図り、グローバルに活躍できる人材として社会に貢献できるようになることを目的とした事業です。令和元年度は、総額1,000万円の予算を準備し、87名の学生の、米国、英国、アジア等の世界トップクラスの大学への渡航を支援しました。

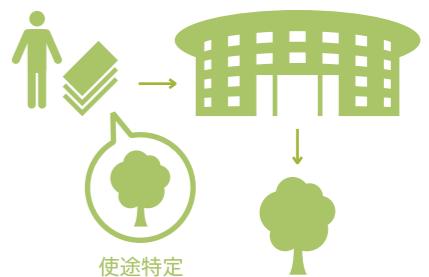
#### 学生の声 海外留学で人生観・価値観が内側から大きく変わりました



▲平川舞さん:工学部3年  
(後列右から2人目)

交換留学先のミュンヘン工科大学では、専攻の航空宇宙工学を主に学びました。具体的には、「Aircraft Design」と「Aerospace Technology 2」の二つの修士学生向けの科目を英語で受講しました。内容はとても難解でしたが、航空機の運航原理や設計の手順、宇宙機のミッションの進め方や宇宙で生じる力などについて学ぶことができました。工学部門において世界最先端の教育を受けることができたのはとても貴重な体験であり、エアバス社やボーイング社の具体例を交えた講義や宇宙飛行士の教授の研究室が開講する授業は刺激的で有意義なものでした。

## 使途特定寄附



寄附者から使途を特定された寄附金については、使途特定寄附として受け入れています。

### 附属図書館中央図書館整備事業

中央図書館は、九州大学附属図書館全体を統括する中核的存在であり、平成30年に箱崎から伊都へ移転が完了し全面開館しました。学習研究環境の一層の充実をはかるべく、未来に向けた夢と希望を発信する事業として整備事業を実施しています。令和元年度寄附額:約80万円



### 九大バリアフリーアートプロジェクト

九州大学は、障害者差別解消法の施行に伴い、就業規則、障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程及びその実施要領を定め、障害がある方に対する支援を実施しています。障害者支援に対する啓発を目的に、キャンパス内に障害者アート作品を展示する「九大バリアフリーアートプロジェクト」を実施するため寄附を募るもので。令和元年度寄附額:約370万円。



このほか、学部周年事業等の使途特定プロジェクト等が多数進行中です。詳細は、下記ウェブサイトをご参照ください。

### お問合せ

### 総務部同窓生・ 基金課基金係

詳細は九州大学基金ウェブサイトをご覧ください。  
お問合せの方は、下記番号までご連絡ください。

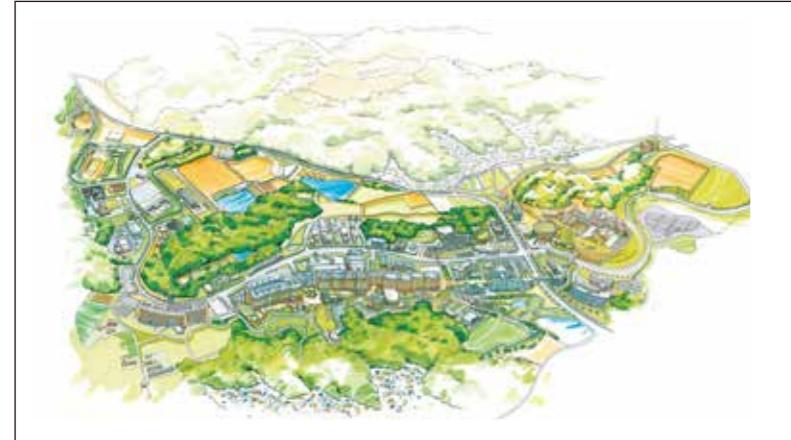
TEL 092-802-2150



九大基金 検索

# キャンパス紹介

特色のあるキャンパスが多様な活動を支えています。



## 伊都キャンパス

伊都キャンパスは、平成17年に移転を開始し、10年を超える歳月をかけ、平成30年に完成しました。現在、学生教職員数約19,000名の本学最大のキャンパスです。水素エネルギーや燃料電池等の研究開発等の近未来の社会モデル提供や、自然環境との共生などを図る、世界でも類を見ない「総合研究の拠点」となるキャンパスです。

〒819-0395 福岡市西区元岡744

## 病院キャンパス

病院キャンパスは、医学系、九大病院等を擁し、将来の医療を担う医療人の育成と、高度先進医療の開発・提供を行う教育・研究・診療拠点です。

〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1



## 筑紫キャンパス

筑紫キャンパスは、先端研究を担う様々な研究施設を擁し、物質、環境とエネルギーの共生型社会の実現を目指す教育・研究拠点です。

〒816-8580 春日市春日公園6-1



## 大橋キャンパス

大橋キャンパスは、平成15年に九州芸術工科大学との統合により誕生し、芸術と科学技術を統合したデザインの教育・研究拠点です。

〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1

## 別府キャンパス

〒874-0838  
大分県別府市大字鶴見字鶴見原4546



## 理事メッセージ

「九州大学財務レポート2020」を最後までお読みいただきありがとうございます。本学の財務情報を中心に、代表的な教育、研究、診療、そして産学官民連携の活動状況が少しでも多くの皆様に伝えることができたなら大変嬉しく思います。

今日、国立大学は持続可能な開発目標SDGsの実現、Society5.0と第4次産業革命、人生100年時代、グローバリゼーション、地方創生等の諸課題の解決に貢献することが期待されています。

大学を、ひいては社会を発展させる最も重要なものは「人」であり、大学として優れた人財を獲得し、優れた人財を育成していくことこそが、研究力や教育力の強化・発展への王道であると考えます。

九州大学が平成30年から始めた高大接続、学部、大学院、そして研究者育成を一つの人財育成システムとして連動させ、持続的に人財育成機能の充実・強化を図る九州大学ルネッサンスプロジェクトを中心として、優秀な学生と卓越して研究力をもつ研究者を育成し、社会へ貢献していきます。

これらを積極的に取り組むため、運営費交付金だけに頼らない財政基盤の確立が不可欠であり、教育研究に係る外部資金の獲得拡大、産学官連携の推進、九大基金の充実、資産の運用や有効活用などの多様な財源の確保に取り組むとともに、徹底した管理的経費の削減などを行い、経営力の強化を実施しています。

引き続き、より多くのみなさまに本学の現状をわかりやすくお伝えしていくので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年12月  
九州大学理事・副学長(財務担当)

福田 晋

